

2026年3月期第2四半期 決算説明資料

限りある資源を活かし、世界を笑顔と感動で満たす！
未来価値創造に挑み続ける企業グループへ

2025年11月10日



SUN FRONTIER

1. 2026年3月期第2四半期 業績ハイライト	P. 2
--------------------------	------

2. 成長戦略と各事業の取組	P. 16
----------------	-------

3. 資本コストや株価を意識した経営	P. 36
--------------------	-------

4. 経営理念・ビジネスモデル	P. 44
-----------------	-------

5. 参考資料	P. 55
---------	-------



2026年3月期第2四半期 業績ハイライト



SUN FRONTIER

今年、創立26年を迎えた当社グループは、社是「利他」の精神で、「一生をかけて、どれだけ多くの人に役立たせていただくことができるか」というフィロソフィのもと、人財を育成し、事業を持続的に成長・拡大してまいりました。12年前に「10年後、10倍、売上1,000億円企業へ」と掲げた目標を前期達成し、今期より新たに長期ビジョン2035に向けた挑戦が始まっています。「限りある資源を活かし、世界を笑顔と感動で満たす！未来価値創造に挑み続ける企業グループ」を目指し、事業を通して、人々の幸福と社会の進化発展に貢献してまいります。

業績 サマリー

- ◆物件売却の遂行・不動産サービス事業やホテル運営事業も順調に伸長し、
対前年同期増収増益
- ◆営業利益・経常利益・当期純利益は**通期予想に対し約60%の水準まで進捗**
通期計画達成に向けて、着実に、かつ高い進捗率で推移
- ◆各セグメントとも計画に沿って順調に進捗
 - ・不動産再生事業は**リブランニング物件の仕入・販売が計画通り進捗**
 - ・不動産サービス事業は**管理受託棟数が増加、貸会議室事業も伸長**
 - ・ホテル・観光事業は**既存ホテルが好調に推移するとともに、新規開業等により運営ホテル数が着実に増加**

トピックス

- ◆M&Aにより2社が当社グループの仲間入り
長野リンデンホールディングス(ホテル)
大竹建窓ホールディングス(サッシ・ガラス窓の加工・施工)
- ◆9月に当社グループ初の**統合報告書**を発行

2026年3月期 第2四半期業績サマリー

計画通りに物件売却を遂行、不動産サービス・ホテル運営も伸長し、増収増益。

(百万円)	25年3月期 第2四半期	26年3月期 第2四半期	対前年同期		26年3月期	
			増減額	増減率	通期予想	進捗率
売上高	36,786	58,232	21,446	58.3%	117,000	49.8%
売上総利益	11,520	20,078	8,557	74.3%	36,420	55.1%
販売費及び一般管理費	4,817	5,947	1,130	23.5%	12,580	47.3%
営業利益	6,703	14,130	7,427	110.8%	23,840	59.3%
経常利益	6,350	13,614	7,263	114.4%	22,500	60.5%
経常利益率	17.3%	23.4%	—	+6.1%pt	19.2%	—
当期純利益 (※)	4,422	8,993	4,570	103.3%	15,500	58.0%

(※) 親会社株主に帰属する中間(当期)純利益

	25年3月期 期末	26年3月期 第2四半期	対前期末		26年3月期 通期予想
			増減額	増減率	
総資産	218,190	237,768	19,578	9.0%	—
自己資本	102,159	108,800	6,641	6.5%	—
自己資本比率	46.8%	45.8%	—	▲1.0%pt	—
ROE	14.7%	—	—	—	14.2%
EPS(円)	291.58	185.31	—	—	319.40
1株当たり配当(円)	(年間) 66	(中間) 38	—	—	(年間予想) 76
連結配当性向	22.6%	—	—	—	23.8%

連結損益計算書

全てのセグメントで増収増益、期初予想に対して順調に進捗

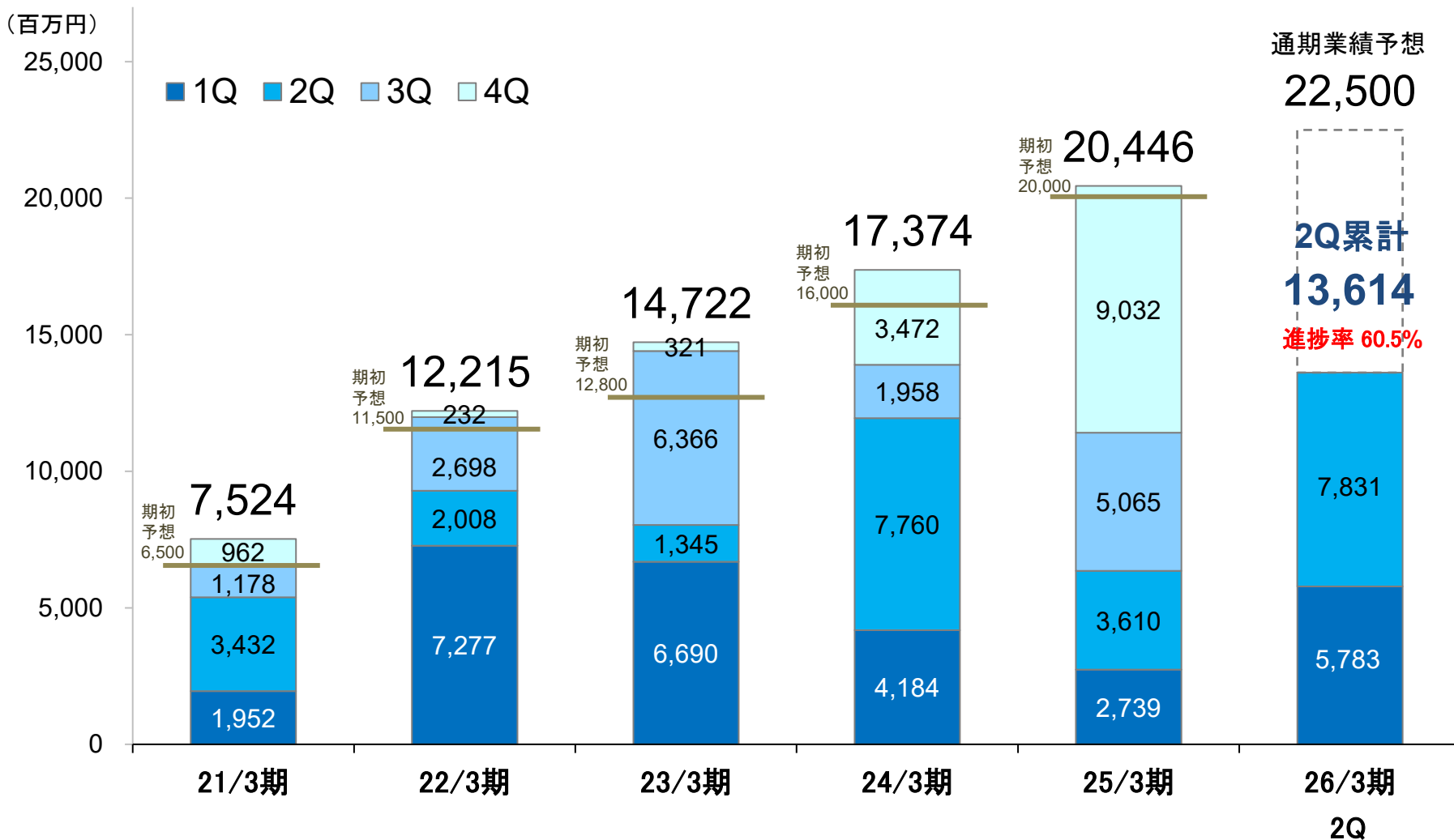
(百万円)	25年3月期 第2四半期	26年3月期 第2四半期	対前年同期		26年3月期	
			増減額	増減率	通期予想	進捗率
売上高	36,786	58,232	21,446	58.3%	117,000	49.8%
不動産再生事業	22,344	39,327	16,982	76.0%	81,340	48.3%
不動産サービス事業	5,954	8,359	2,405	40.4%	14,000	59.7%
ホテル・観光事業	8,216	9,733	1,517	18.5%	21,490	45.3%
その他	953	1,600	647	67.9%	2,230	71.8%
調整額	▲ 682	▲ 788	▲ 106	－	▲ 2,060	－
売上総利益	11,520	20,078	8,557	74.3%	36,420	55.1%
不動産再生事業	6,684	13,090	6,406	95.8%	25,560	51.2%
不動産サービス事業	2,949	4,527	1,577	53.5%	6,940	65.2%
ホテル・観光事業	2,101	2,566	465	22.1%	4,340	59.1%
その他	259	439	180	69.6%	530	82.9%
調整額	▲ 474	▲ 546	▲ 72	－	▲ 950	－
販売費及び一般管理費	4,817	5,947	1,130	23.5%	12,580	47.3%
営業利益	6,703	14,130	7,427	110.8%	23,840	59.3%
経常利益	6,350	13,614	7,263	114.4%	22,500	60.5%
当期純利益	4,422	8,993	4,570	103.3%	15,500	58.0%

- 不動産再生
- 不動産サービス
- ホテル・観光事業
- 販管費

売却件数は13件(対前年同期▲1件)。規模の大きい物件の売却等があり、増収増益
PM受託件数増加、売買仲介の伸長、貸会議室の稼働好調等により増収増益
堅調な国内旅行需要やインバウンド需要に加え、オペレーション力の強化に努め、
客室単価と稼働率が向上し増収増益
人的資本投資やシステム投資等により増加

直近5期の経常利益推移

通期の業績予想に対し、順調に進捗



連結貸借対照表 -資産-

リプランニング物件等の仕入拡大・ホテル開発進捗により棚卸資産が増加

(百万円)	2025年 3月末	2025年 9月末	増減額
流動資産	183,706	198,668	14,962
現金及び預金	44,920	45,776	856
棚卸資産	133,713	146,468	12,775
内訳) RP事業	115,549	122,879	7,330
ホテル	15,326	20,596	5,269
海外等	2,837	2,993	155
その他流動資産	5,072	6,422	1,349
固定資産	34,484	39,100	4,616
有形固定資産	24,290	28,542	4,251
無形固定資産	2,288	2,241	▲ 46
投資その他の資産	7,904	8,316	411
資産合計	218,190	237,768	19,578

RP物件の仕入や
ホテル開発案件の進捗
により増加

ホテル開発進捗

連結貸借対照表 -負債・純資産-

仕入進捗により有利子負債増加も、自己資本比率は目標水準維持

(百万円)	2025年 3月末	2025年 9月末	増減額	
流動負債	26,663	28,520	1,856	
短期借入金等	10,240	10,337	97	有利子負債(リース債務含む) 106,254百万円
その他流動負債	16,423	18,182	1,759	
固定負債	85,634	99,816	14,182	
長期借入金	72,219	85,881	13,662	
社債	9,999	9,999	-	
その他固定負債	3,415	3,935	519	
負債合計	112,298	128,337	16,039	
株主資本	100,949	108,204	7,255	当期純利益の積上げにより 7,255百万円増加
その他	4,942	1,226	▲ 3,716	
純資産合計	105,892	109,431	3,538	
負債・資本合計	218,190	237,768	19,578	
自己資本比率	46.8%	45.8%	▲ 1.0%pt	

物件販売好調により大幅増収増益、通期予想に対しても順調に進捗

(百万円)	25年3月期 第2四半期	26年3月期 第2四半期	対前年同期		26年3月期	
			増減額	増減率	通期予想	進捗率
売上高	22,344	39,327	16,982	76.0%	81,340	48.3%
リプランニング事業	20,987	37,570	16,582	79.0%	78,440	47.9%
賃貸ビル事業	1,357	1,757	399	29.5%	2,900	60.6%
売上総利益	6,684	13,090	6,406	95.8%	25,560	51.2%
リプランニング事業	6,501	12,600	6,099	93.8%	25,160	50.1%
賃貸ビル事業	182	489	307	167.8%	400	122.5%
セグメント利益 (※)	6,049	11,802	5,753	95.1%		
リプランニング事業	5,866	11,312	5,446	92.8%		
賃貸ビル事業	182	489	307	167.8%		
セグメント利益率	27.1%	30.0%	–	+2.9%pt		
リプランニング事業	28.0%	30.1%	–	+2.2%pt		
賃貸ビル事業	13.5%	27.9%	–	+14.4%pt		

(※) 売上総利益から支払利息・販売手数料、のれん償却等各事業で発生する固有の費用を差し引いて算出(全ページ共通)

■リプランニング事業

販売件数は減少も、規模の大きい物件や高収益の新築物件の販売があったこと等により増収増益

(販売件数) 13件(内、小口所有商品2件・新築ビル等2件)。前年同期と比較し▲1件。

(平均事業期間) 867日(対前年通期比+84日)

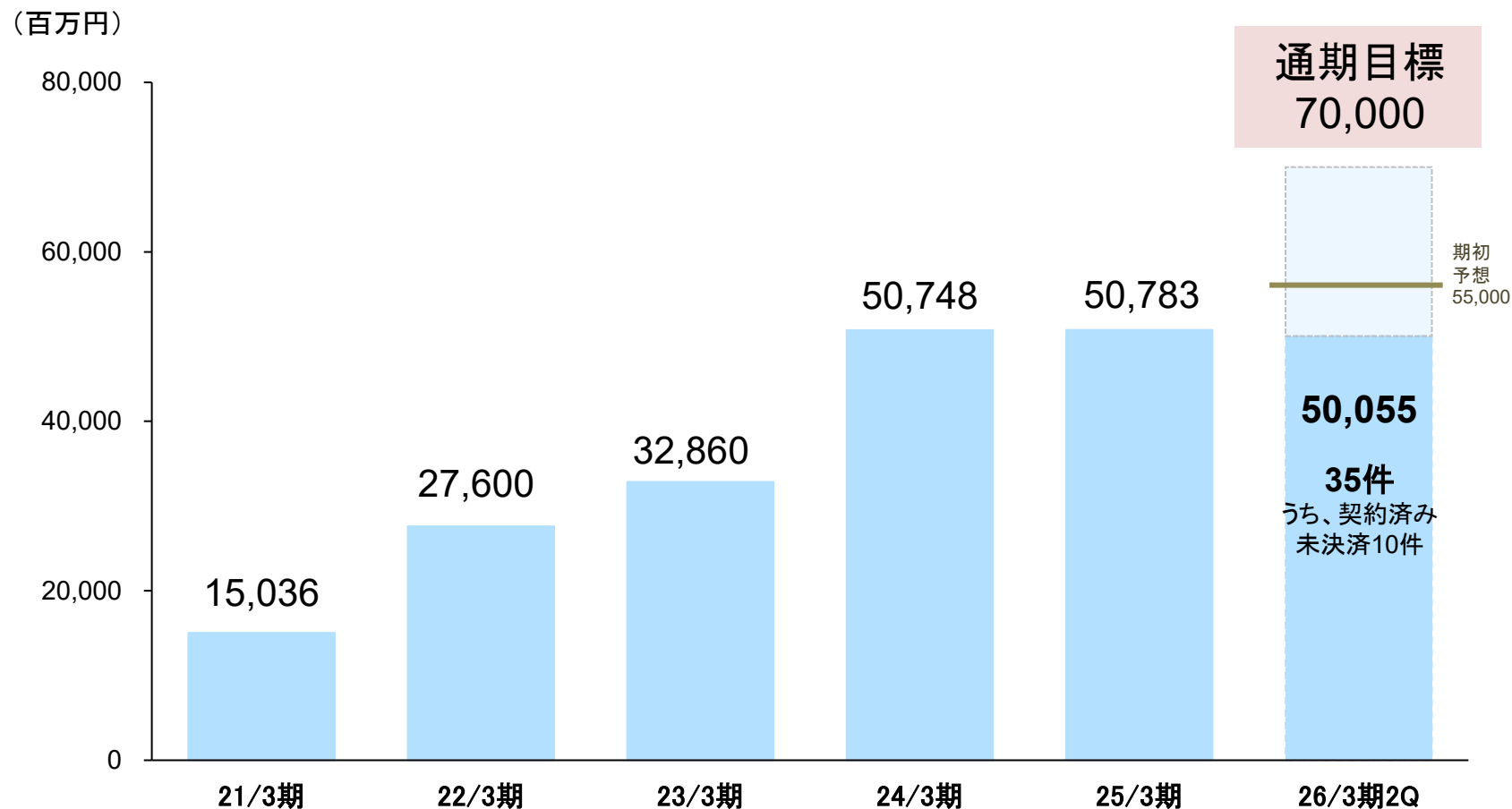
新築物件が2件含まれているため事業期間が対前年通期比で長期化

■賃貸ビル事業

物件仕入れの進捗に加え、前年同期と比較し賃貸関連費用が減少したこと等により増収増益

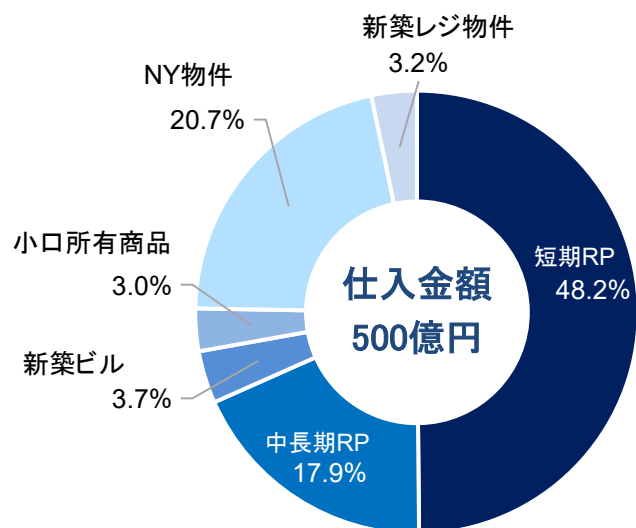
契約済み未決済分含め500億円の仕入れ^{*}を実施。通期目標を700億円に修正

※ 固定資産、不動産小口商品、NY物件含む



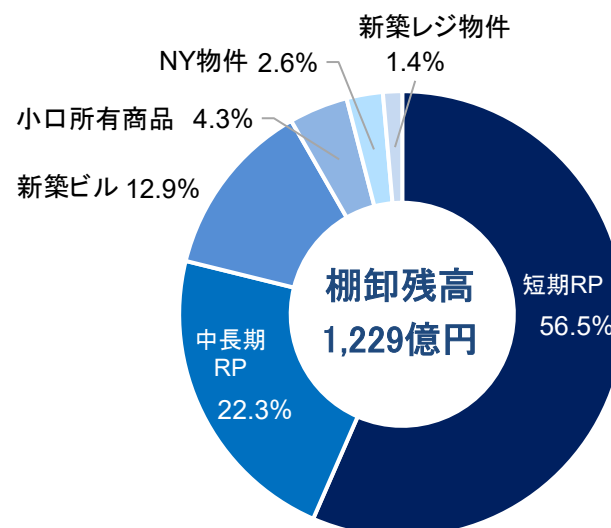
第2四半期累計期間における仕入・販売指標

仕入金額内訳



- 35件500億円の仕入れを実施
(10件122億円の契約済み未決済案件含む)
- 前年同期の仕入実績
27件250億円
(10件101億円の契約済み未決済案件含む)

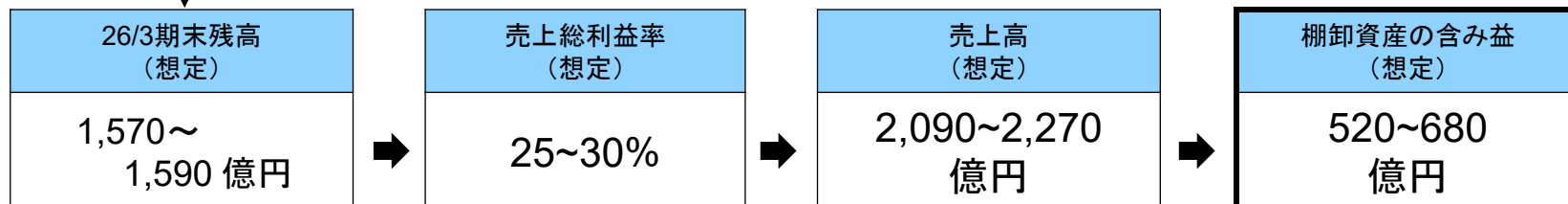
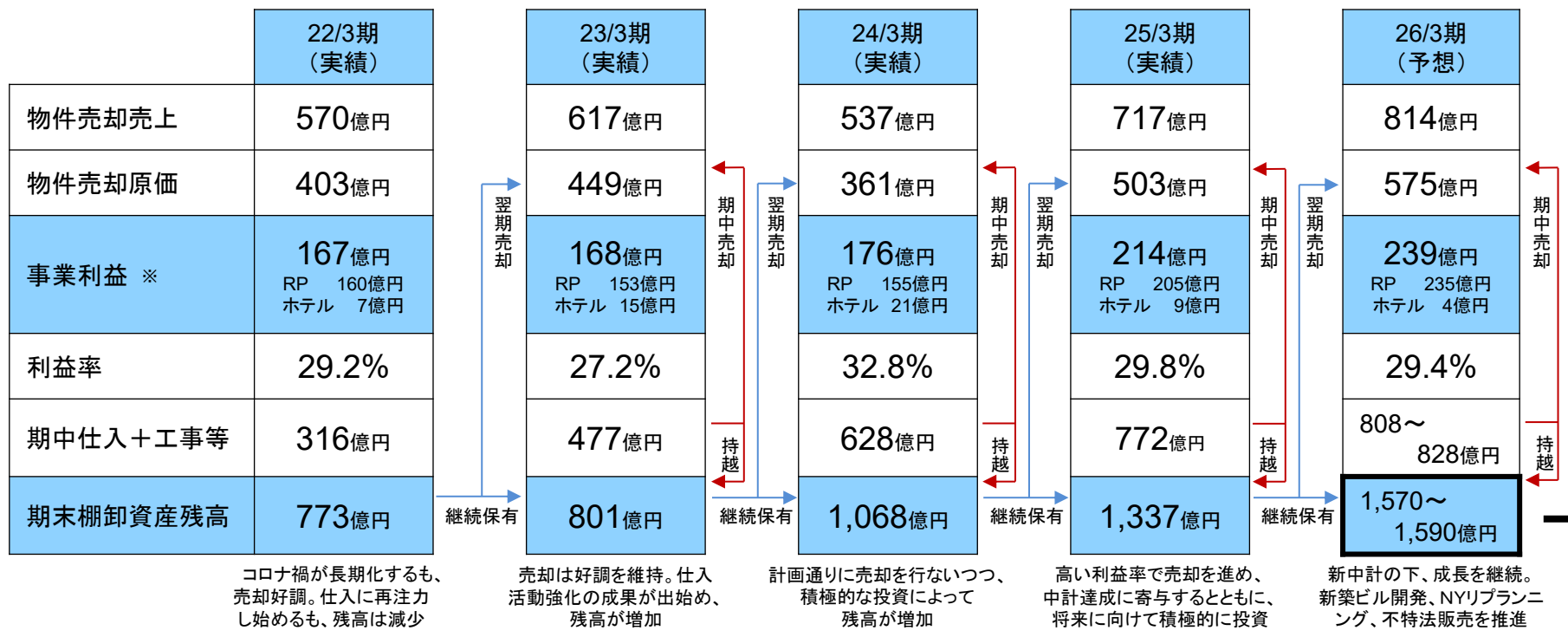
棚卸残高内訳



- 2Q末在庫数 77件(対前年同期+8件)
- 新築ビル・小口所有商品等のウェイトが増加し、アセットの多様化が進捗

不動産再生事業 - 棚卸資産と物件売却益推移 -

多様化するフロー型事業へバランスよく積極的に投資



※ 事業利益 = 売上総利益 - 販売手数料、RPはNYおよび不動産小口所有商品を含む

PM受託棟数や貸会議室事業の伸長等によって増収増益、通期予想に対しても順調に進捗

(百万円)	25年3月期 第2四半期	26年3月期 第2四半期	対前年同期		26年3月期	
			増減額	増減率	通期予想	進捗率
売上高	5,954	8,359	2,405	40.4%	14,000	59.7%
PM/BM/仲介事業等	3,969	5,514	1,545	38.9%	8,789	62.7%
貸会議室	1,984	2,844	860	43.3%	5,210	54.6%
売上総利益	2,949	4,527	1,577	53.5%	6,940	65.2%
PM/BM/仲介事業等	2,573	3,533	959	37.3%	5,915	59.7%
貸会議室	375	994	618	164.5%	1,024	97.1%
セグメント利益	2,940	4,520	1,579	53.7%		
PM/BM/仲介事業等	2,573	3,533	959	37.3%		
貸会議室	366	986	619	169.0%		
セグメント利益率	49.4%	54.1%	—	+4.7%pt		
PM/BM/仲介事業等	64.8%	64.1%	—	▲0.8%pt		
貸会議室	18.5%	34.7%	—	+16.2%pt		

■PM/BM/仲介事業等

- (PM) PM受託棟数が増加し、増収増益
- (BM) グループ内連携強化によって、管理受託棟数が増加し、増収増益
- (売買仲介) グループ内からの紹介案件の成約に加え、取り扱い案件の大型化が進み、増収増益
- (賃貸仲介) ハイブリッドな働き方や人財獲得といった需要を捉え、増収増益
- (滞納賃料保証) 新規契約および再保証契約件数が順調に伸長したことにより、増収増益

■貸会議室

オープン1年未満の拠点が軌道に乗るとともに、長期利用や大型案件が増えたことにより、増収増益

運営ホテルは32棟3,649室となり順調に事業を拡大、既存ホテルも好調に推移し増収増益

(百万円)	25年3月期 第2四半期	26年3月期 第2四半期	対前年同期		26年3月期	
			増減額	増減率	通期予想	進捗率
売上高	8,216	9,733	1,517	18.5%	21,490	45.3%
ホテル開発	272	—	▲ 272	—	3,000	—
ホテル運営等	7,943	9,733	1,790	22.5%	18,490	52.6%
売上総利益	2,101	2,566	465	22.1%	4,340	59.1%
ホテル開発	107	▲ 27	▲ 135	—	520	—
ホテル運営等	1,994	2,594	600	30.1%	3,820	67.9%
セグメント利益	2,005	2,291	286	14.3%		
ホテル開発	52	▲ 127	▲ 180	—		
ホテル運営等	1,952	2,419	466	23.9%		
セグメント利益率	24.4%	23.5%	—	▲ 0.9%pt		
ホテル開発	19.3%	—	—	—		
ホテル運営等	24.6%	24.9%	—	+0.3%pt		

■ホテル開発事業

(新規開発状況)

(売却実施状況)

来年度以降の建設中・計画中のホテルは合計16棟2,534室
下半期に予定

■ホテル運営事業

(新規開業・取得状況)

6月「STITCH HOTEL Kyoto」(16室)開業 / 8月「長野リンデンプラザホテル」(136室)M&Aによりグループ入り
9月「たびのホテル加古川別府駅前」(172室)開業 / 10月「たびのホテル石狩」(175室)開業

(運営状況)

好調なインバウンド需要等に加え、オペレーション力の強化に努め、稼働率・客室単価が上昇し、増収増益

工事受注件数の増加等により増収増益

(百万円)	25年3月期 第2四半期	26年3月期 第2四半期	対前年同期		26年3月期	
			増減額	増減率	通期予想	進捗率
売上高	953	1,600	647	67.9%	2,230	71.8%
売上総利益	259	439	180	69.6%	530	82.9%
セグメント利益	227	408	180	79.4%		
セグメント利益率	23.9%	25.5%	－	+1.6%pt		

■建設事業 オフィス等の内装工事や通信ネットワーク工事等の工事受注の件数が前年同期比増加し、増収増益

■海外開発事業（ベトナム）

2024年8月に着工したベトナム新規分譲マンションプロジェクト（第2号案件 HIYORI Aqua Tower ）は、
2026年度下半期の竣工に向けて、工事が進捗中



成長戦略と各事業の取組



SUN FRONTIER

1. 世界経済は、米国関税政策強化による景気急減速シナリオ後退も先行きは依然不透明な状況

◆米国は、保護主義的な関税政策の強化を発動した一方で、FRBによる政策金利の引き下げを実施

◆IMFは世界経済成長見通しを3.0%と想定するも、地政学リスク等により先行きは依然不透明な状況

2. 日本経済は、円安・株高基調継続も、世界経済の減速懸念等もあり引き続き不確実性が高い状況

◆円安・株高基調継続も、地政学リスクや中国経済の減速等もあり、引き続き不確実性が高い

◆日銀は政策金利据え置きも、米国の関税影響を見極めつつ、金利引き上げのタイミングを探る状況

3. 都心オフィスビル市場においては、賃料上昇と空室率改善が続いており、堅調な投資意欲が継続

◆オフィスビルの新築・竣工が前年より増加予定だが、生産性向上や人材確保のための需要が底堅い

◆緩やかな金利上昇局面であるものの、アジアを中心とした富裕層や、機関投資家の投資意欲は堅調

4. ホテル・観光市場は、過去最速ペースの訪日客数を背景に旅行消費額も堅調に推移

◆2025年1～9月の訪日客数は、ビザ緩和の中国人観光客が大きく増加し、過去最速で3,000万人を突破

◆好調なインバウンド消費に加え、大阪万博効果等による堅調な国内需要により旅行消費額も増加傾向

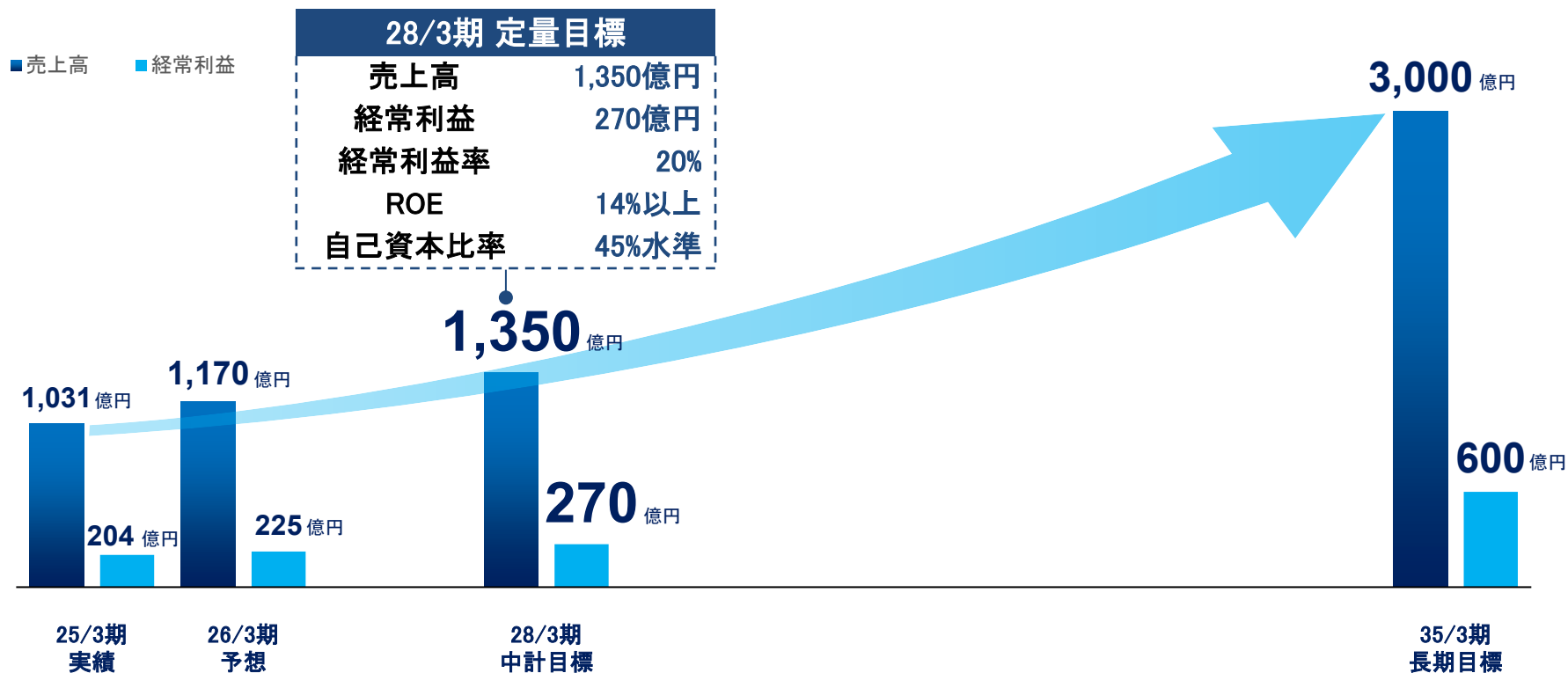
長期ビジョン2035および中期経営計画2028

長期ビジョン2035

限りある資源を活かし、世界を笑顔と感動で満たす！
未来価値創造に挑み続ける企業グループへ

中期経営計画2028

基本方針
お客様視点のものづくりと心温かいサービスで、本業連携多角化を推進し、
社会課題の解決に取り組む



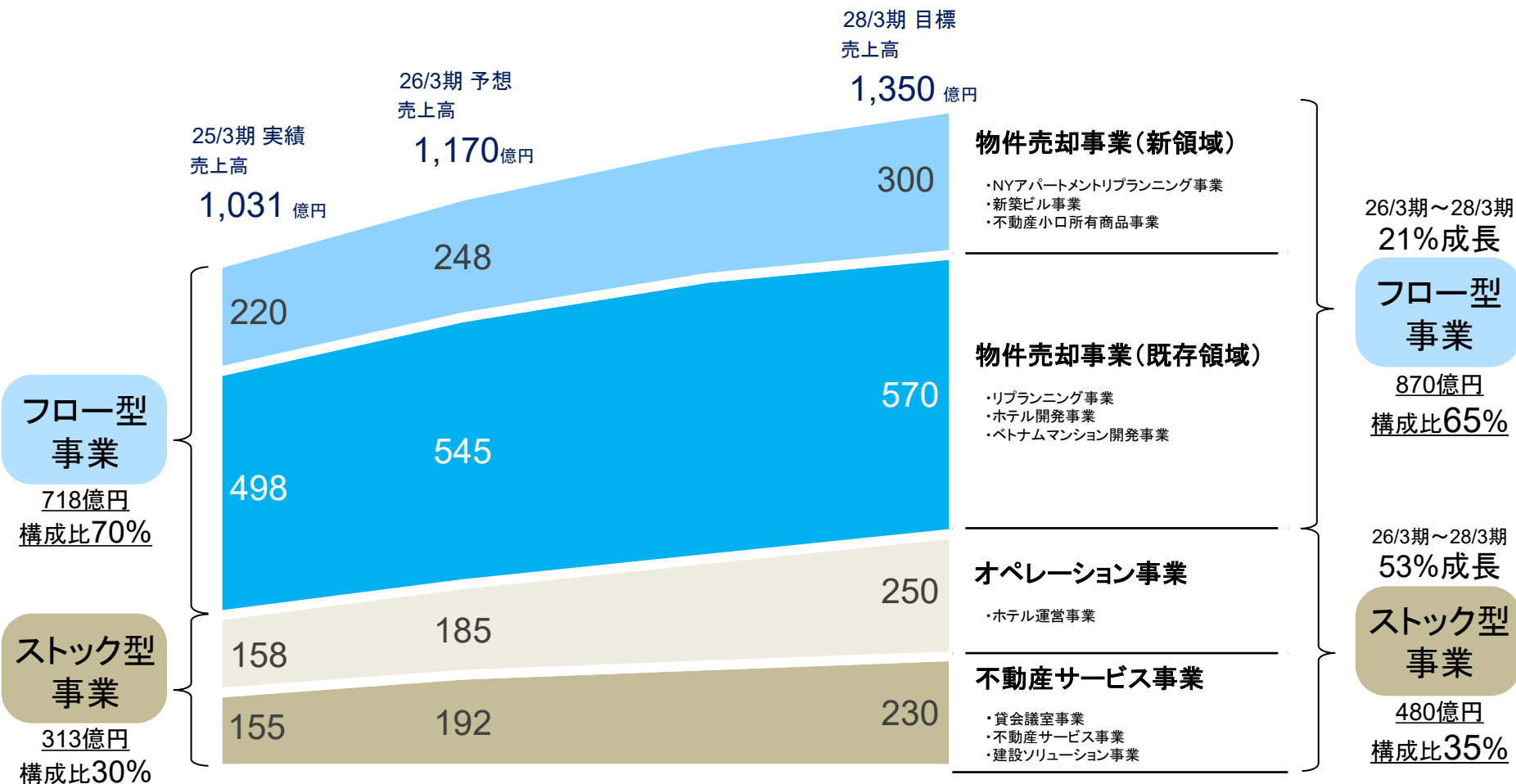
成長戦略

ものづくり力とサービス力を組み合わせた事業モデルで本業連携多角化を進め、資金を有効に循環させ活用しながら、事業領域を拡大し、成長を加速

注力する 3つの市場	事業モデル	事業領域	エリア		目指す姿
オフィス	開発	リノベーション	東京	大阪	資源循環型の 不動産活用で 持続可能な社会の 実現に貢献
		事業領域拡大 新築			
		不動産小口所有商品 (不動産特定共同事業)			お客様視点の お困りごと解決で、 笑顔と感動を創出
	サービス	不動産サービス			
	運営	貸会議室運営			
ホテル	開発	新築	全国		心温かい楽しいホ テルを全国に展開、 地域と共に発展
		リノベーション			
	運営	ホテル運営			
レジデンシャル	開発	事業領域拡大 新築	エリア拡大 ベトナム	東京	安心・安全、快適 で良質な住環境を 提供し、国の発展 に寄与
		リノベーション	ニューヨーク		
	サービス	不動産サービス	ベトナム ニューヨーク		

事業成長と収益構造の強化

1. フロー型事業のASET売却益の多様化とストック型事業の多角化を進める
2. 全体の収益を伸ばしながら、市況変動に強いストック型事業の売上構成比率を高めていく



資金計画

各事業の利益率、回転率を重視した上で、資本コストを意識しつつ、成長分野に積極投資

中期経営計画2028の投資総額は3,100億円

【資金収入累計】

【資金支出累計】

物件売却等
事業収入

借入金

現預金

3,220億円

事業成長
投資

3,100億円

株主還元

短期 リブランニング	1,000億円	都心5区の中小型ビルに、積極投資を継続
中長期 リブランニング	500億円	賃貸収入と売却益の両面から投資に注力
新築開発	300億円	培った技術を活かし、投資を拡大
NYアパートメント リブランニング	200億円	成長性の高い市場での事業拡大に向けて投資増強
不動産 小口所有商品	210億円	東京に加え、関西等の他地域でも商品化を推進
ホテル開発	700億円	運営室数10,000室に向けて積極投資
ベトナム マンション開発	90億円	成長性が高く、住宅需要が見込めるダナンへ投資
M&A、デジタル その他	100億円	事業の成長加速とシナジー創出のために積極活用
配当※	120億円	利益成長に伴って増配し、株主様に還元

※27/3期末までにCBの株式への転換が進み、発行済み株式数が増すことを想定

フロー型事業の業績進捗

(RP事業、ホテル開発事業、海外開発事業
の販売用不動産売却の合計)



通期利益予想に対し計画通りに進捗

売上高の推移

通期業績予想

81,440

実質進捗率
53.4%

2Q決算発表日
時点における
契約済み
決済予定分

5,904

37,588

売上総利益の推移

通期業績予想

25,549

実質進捗率
54.5%

2Q決算発表日
時点における
契約済み
決済予定分

1,357

12,571

(百万円)

(百万円)

23/3期

24/3期

25/3期

26/3期2Q

23/3期

24/3期

25/3期

26/3期2Q

ストック型事業の業績進捗

(不動産サービス、ホテル運営事業等、
販売用不動産売却以外の全事業の合計)

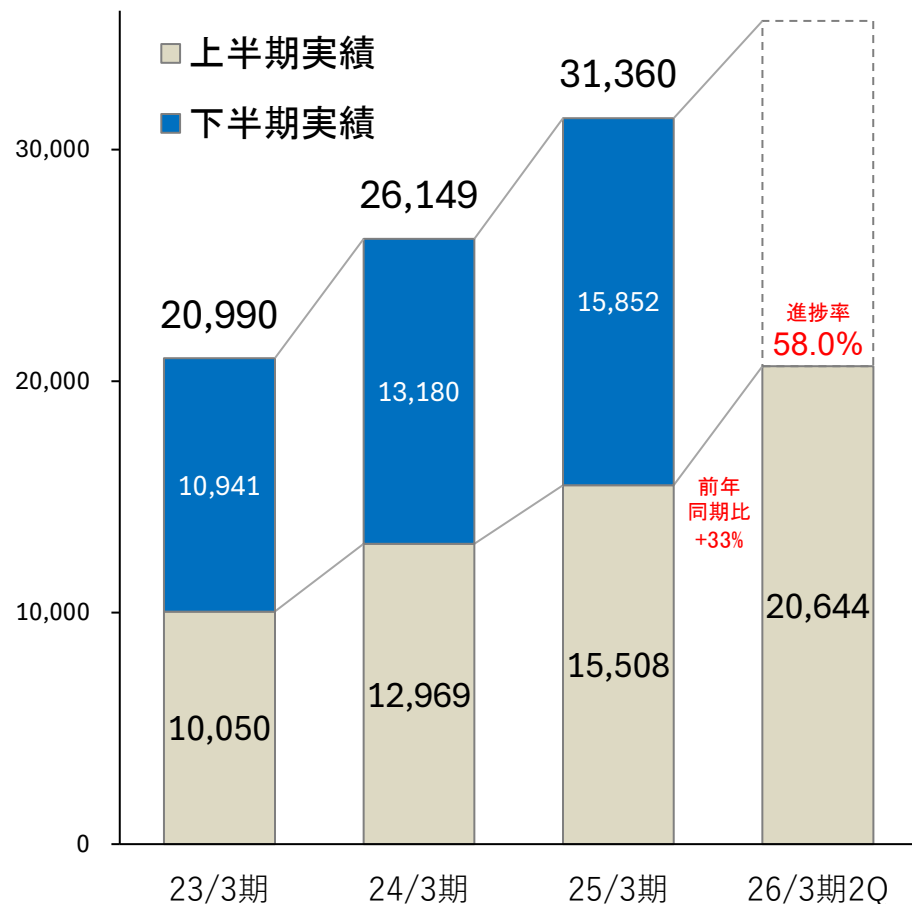


増収増益を継続。売上、売上総利益ともに、上半期過去最高を更新

(百万円)

売上高の推移

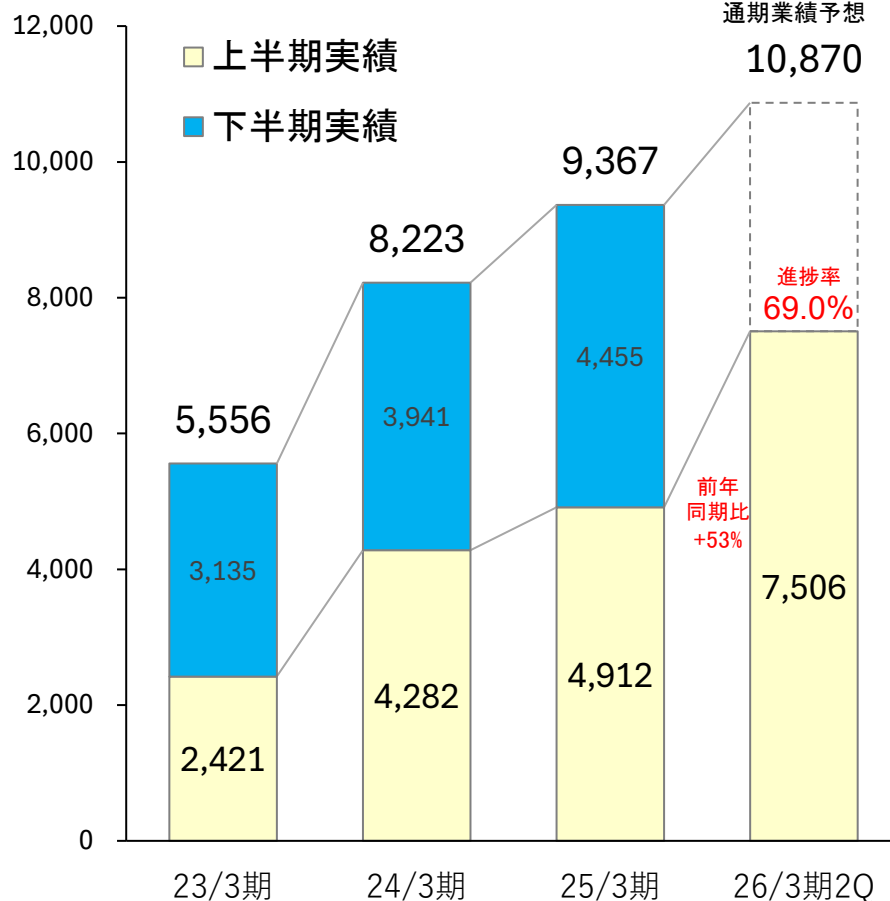
通期業績予想
35,559



(百万円)

売上総利益の推移

通期業績予想
10,870

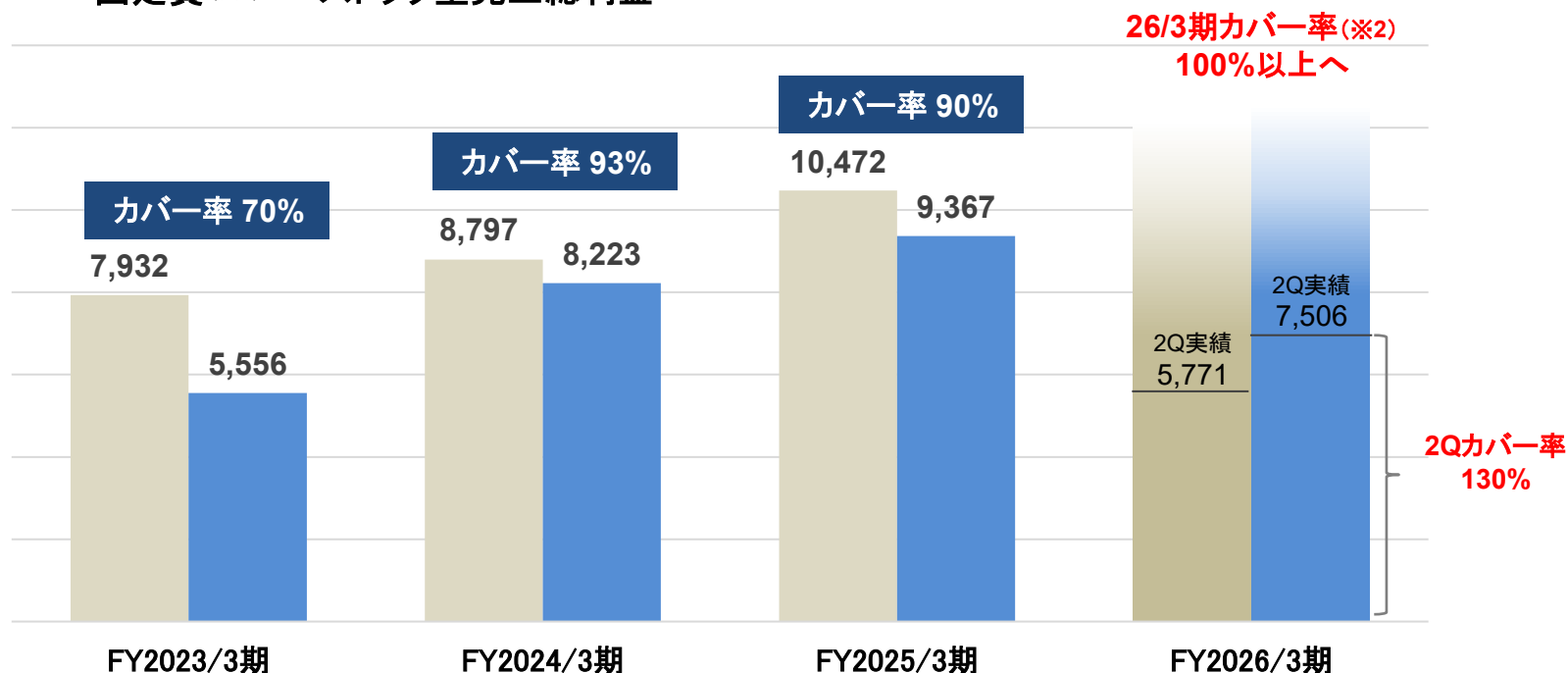


ストック型事業(安定型事業)によるカバー率

早期にストック型事業の売上総利益により固定費をカバーする体制を目指す

(百万円)

■ 固定費 (※1) ■ スtock型売上総利益

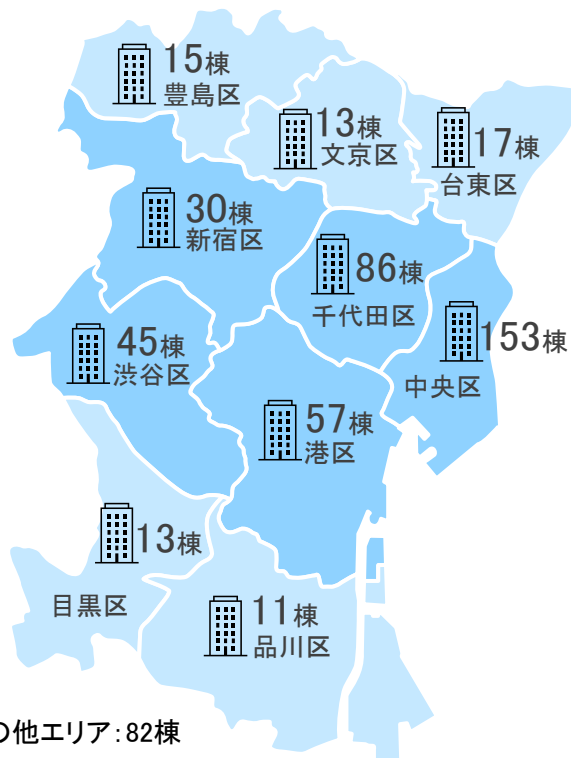


(※1) 固定費 = 販売費及び一般管理費 - 販売手数料 + 支払利息

(※2) カバー率 = スtock型売上総利益 ÷ 固定費

都心の中小型ビルの付加価値創造への挑戦を継続

地下の倉庫部分もセットアップオフィスへ転換、リノベーションを通じて資産価値を最大化



その他エリア:82棟

東京都心5区および隣接区
リプランニング累計実績 **522棟**



Before



倉庫として使われていた
地下1階部分をセットアップ
オフィスへコンバージョン

After



リノベーション工事を実施



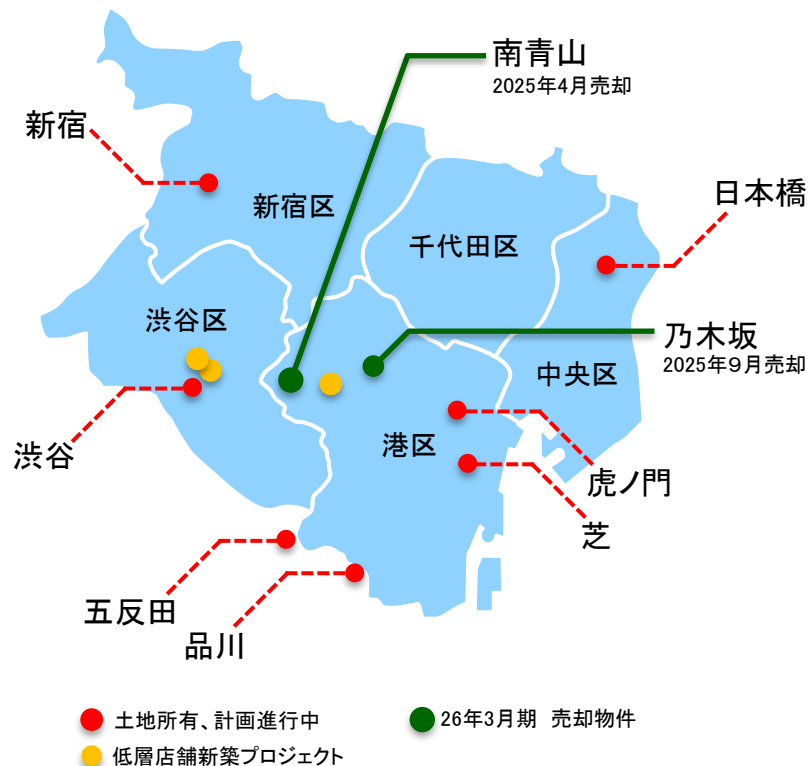
【東京都中央区日本橋茅場町 一棟収益ビル】

鉄骨鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下1階地上10階建

- ・新大橋通り沿いに位置し、前面の窓から多くの光を取り込んだ、明るい内装を創出
- ・地下区画は間接照明やペンダントライトを活用し、地下と感ぜさせない空間へ再構築
- ・柔らかな曲線を取り入れた空間構成により、温かみと開放感のあるオフィスを設計

オフィスづくりのノウハウを昇華させた新築ビル開発

次の時代へと成長をさらに加速させるイメージが広がるオフィス空間を創出



資産回転率の高いリプランニング物件や不動産小口所有商品に加え、低層店舗ビルやオフィスビルの新築物件等多様なアセットを組み合わせることで、長期的、安定的な販売計画を描く



外觀



ルーフトップテラス



会議室



入居者専用ラウンジ

【東京都港区赤坂 新築一棟収益ビル】

鐵骨造、陸屋根、地上13階建

- ・企業成長の土壌となるよう、「根」をモチーフにした新築オフィスビルを開発
- ・リノベーションでは作れない、最適化された内装からオフィス空間を構築
- ・無垢の床材やレザーを取り入れ、温もりと上質さを感じる環境を演出

多様な不動産小口所有商品の開発と提案を推進

主要都市で商品開発を行い、全国の多くのお客様の投資ニーズに応える提案を推進



人と街に笑顔をつなぐ価値創造型マンション開発

防音仕様やペット共生型設備を備えた高付加価値の一棟賃貸マンションの開発が本格化し、竣工に向け順調に進捗

【現況】 更地 2026年1月 着工予定	
【計画】 28/3期 販売予定	
所在地	練馬区豊玉北
構造	RC造壁式構造 4階建て
間取り・戸数	1K : 8戸、2DK : 3戸、1LDK : 1戸

【主な事業展開エリア】

都心5区、目黒区、品川区、中野区、
世田谷区、文京区、台東区
豊島区、練馬区、板橋区、大田区、
杉並区、北区、荒川区



【現況】 解体 未着手	既存建物あり
【計画】 28/3期 販売予定	
所在地	中央区日本橋茅場町
構造	RC造 12階建て
間取り・戸数	1LDK : 22戸、プレミアム3LDK : 1戸

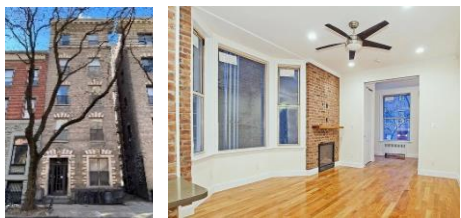
【現況】 工事中 2026年1月 竣工予定	
【計画】 27/3期 販売予定	
所在地	新宿区西落合
構造	RC造壁式構造 4階建て
間取り・戸数	1K : 11戸、2DK : 1戸、2LDK : 1戸

【現況】 工事中 2026年7月 竣工予定	
【計画】 27/3期 販売予定	
所在地	品川区西大井
構造	RC造壁式構造 5階建て
間取り・戸数	1K : 18戸、2DK : 1戸

ニューヨークでアパートメントリプランニング事業を推進

世界経済の中心であるニューヨークで、築年数100年超のアパートメントをリノベーション
建物設備や内装設備を、最新の技術とデザインで改修し、高収益物件として販売

売却活動中	
所在地	チェルシー (Chelsea)
構造	レンガ造 地下1階付5階建
間取り・戸数	1LDK:2室、2LDK:1室、3LDK:2室
特徴	歴史とアートが融合する高級住宅街に佇む、歴史的保存地区に指定された築169年の歴史的価値の高い物件

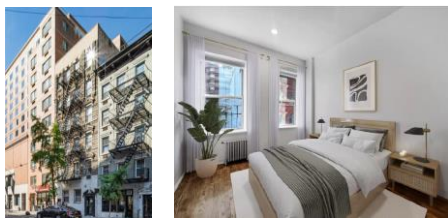
リニューアル工事中	
所在地	チェルシー (Chelsea)
構造	レンガ造 地下1階付5階建
間取り・戸数	3LDK:1室、4LDK:4室
特徴	ハドソンヤーズまで徒歩圏内。落ち着いた住環境で、周辺企業の勤務層に人気のエリア

【ニューヨーク・マンハッタン地図】



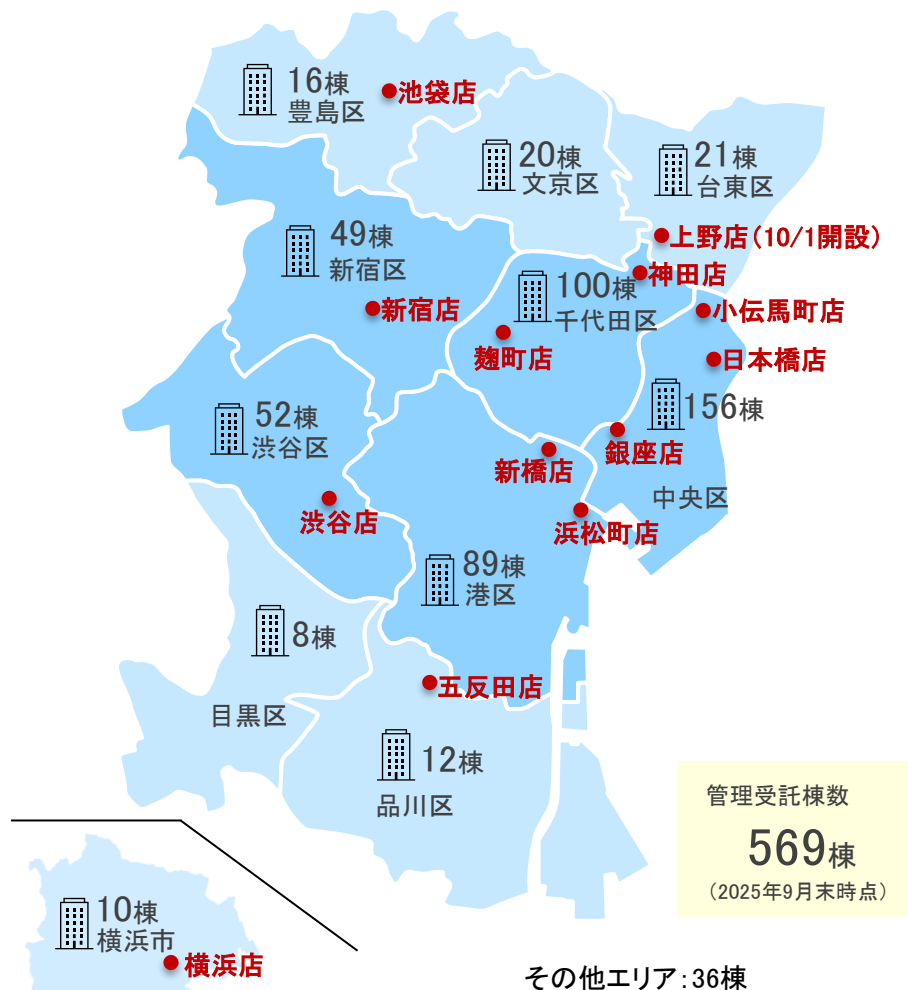
● 売却済み
● 商品化中・売却活動中

売却活動中	
所在地	ヘルズキッチン (Hell's Kitchen)
構造	レンガ造 地下1階付5階建
間取り・戸数	事務所:1室、Studio:1室、1LDK:9室
特徴	タイムズスクエア至近で利便性が高い人気エリア。建物全体と構造も含め大規模リノベを実施

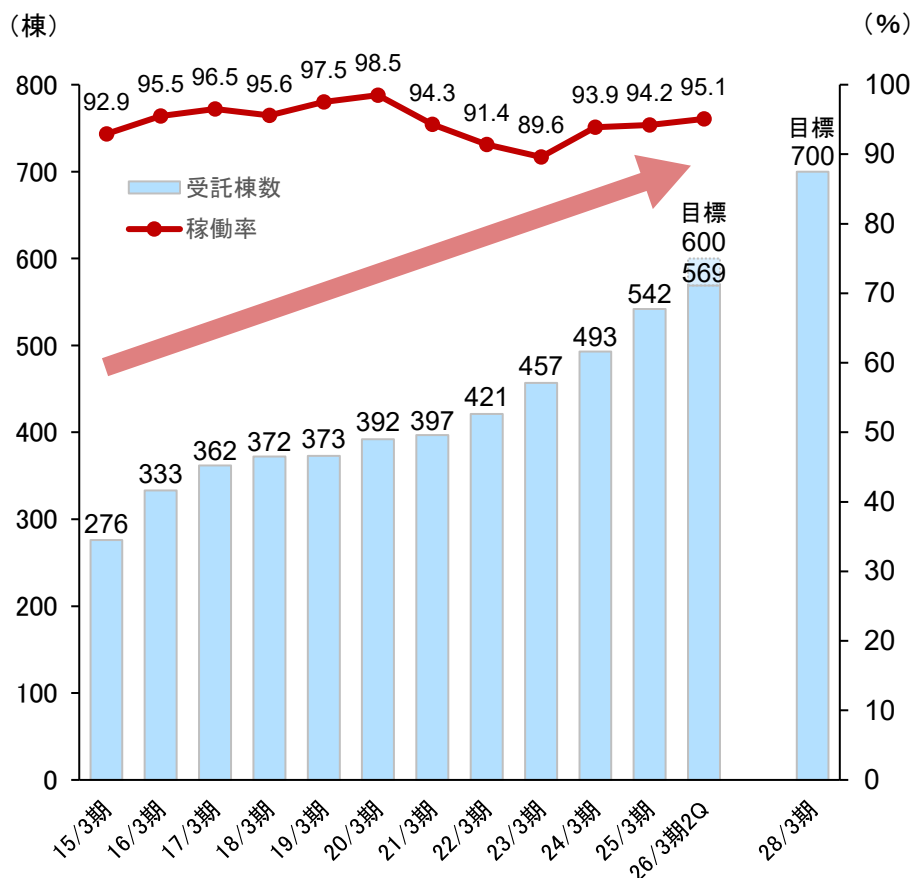
リニューアル工事中	
所在地	ユニオンスクエア (Union Square)
構造	レンガ造 地下1階付6階建
間取り・戸数	Studio:1室、1LDK:11室、2LDK:6室
特徴	マンハッタン中心のUnion Square。7路線が交差し主要地へ好アクセス、生活利便も高い

PM受託棟数を増やし、サービス内容も充実

賃貸仲介では、上野支店を地域戦略の核として新設し、エリア連携を機動的に強化
PM事業では、地域密着型のネットワークを活かし、PM受託棟数を拡大、サービスを拡充



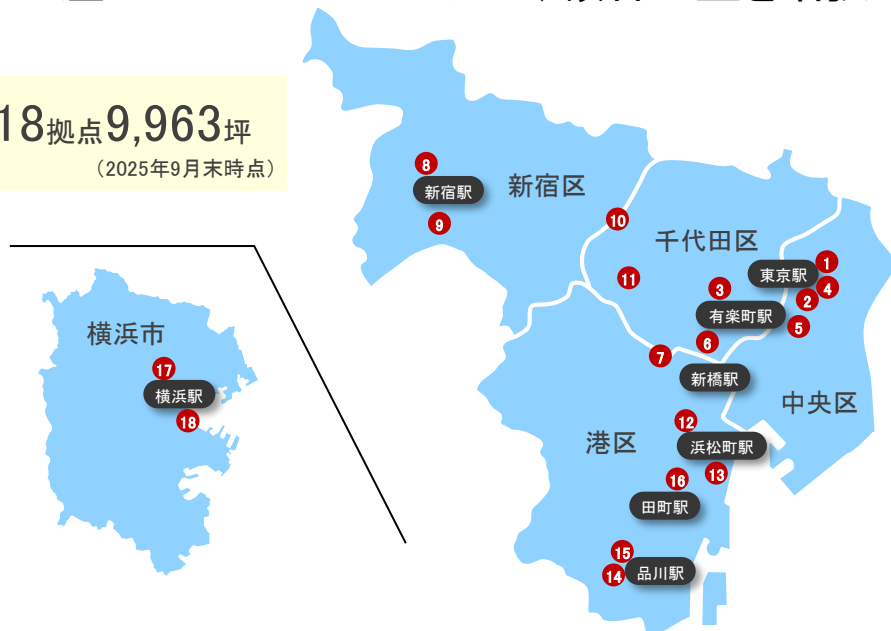
管理受託棟数および稼働率の推移



大型案件やリピーターによる長期利用が業績に寄与

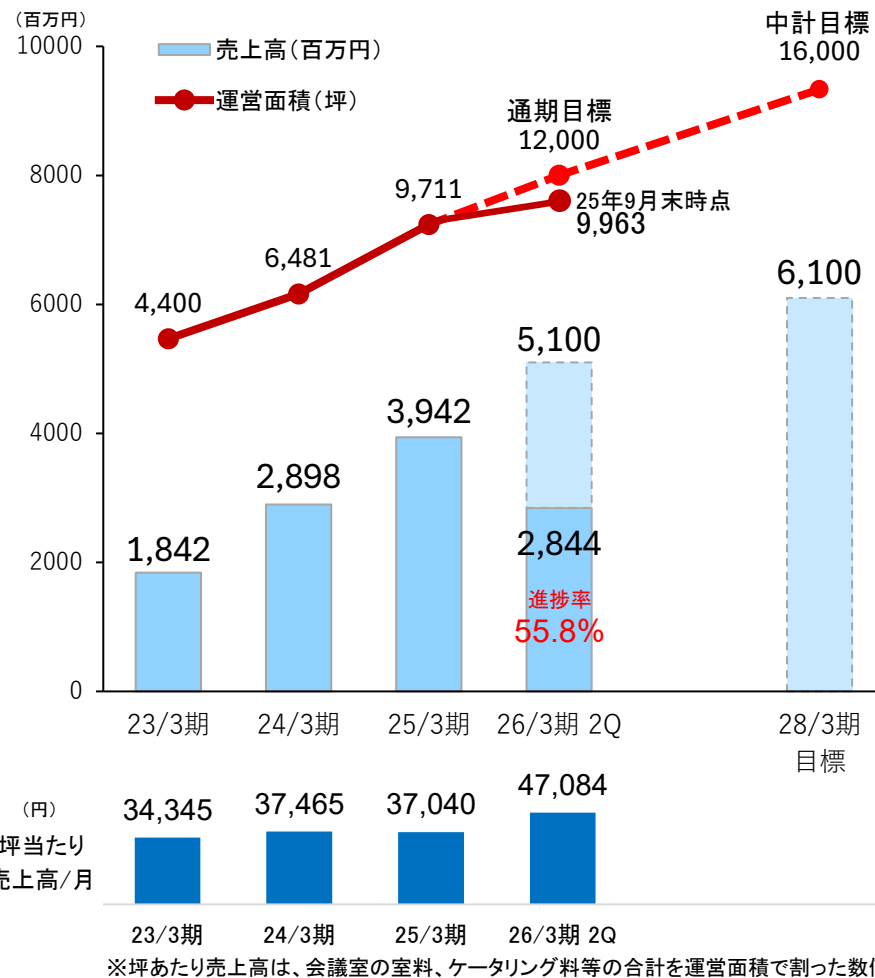
「部屋を売るのではなく、催事の成功を叶える」という方針のもと、拠点を拡大しつつ、心温かいサービスに注力し、顧客基盤を増強

18拠点9,963坪
(2025年9月末時点)



東京・八重洲・丸の内エリア			赤坂・市ヶ谷エリア		
① 東京駅前 ※26.4.1増床予定	209坪		⑩ 市ヶ谷	366坪	
② 東京八重洲	324坪		⑪ 赤坂(永田町)	248坪	
③ 有楽町	138坪		田町・品川・浜松町エリア		
④ 東京京橋	782坪		⑫ グランド東京浜松町	1,456坪	
⑤ 東京日本橋	343坪		⑬ 浜松町	431坪	
新橋・虎ノ門エリア			⑭ 品川	641坪	
⑥ 新橋	390坪		⑮ 品川アネックス	444坪	
⑦ 東京虎ノ門 ※25.9.29増床	776坪		⑯ 田町	954坪	
新宿エリア			横浜・みなとみらいエリア		
⑧ 新宿メインズタワー	687坪		⑰ 横浜(西口)	558坪	
⑨ 西新宿	789坪		⑱ 横浜みなとみらい	427坪	

◆貸会議室事業売上、ビジョンセンター運営面積 推移



心温かいサービスで世界でたった一つのホテルへ

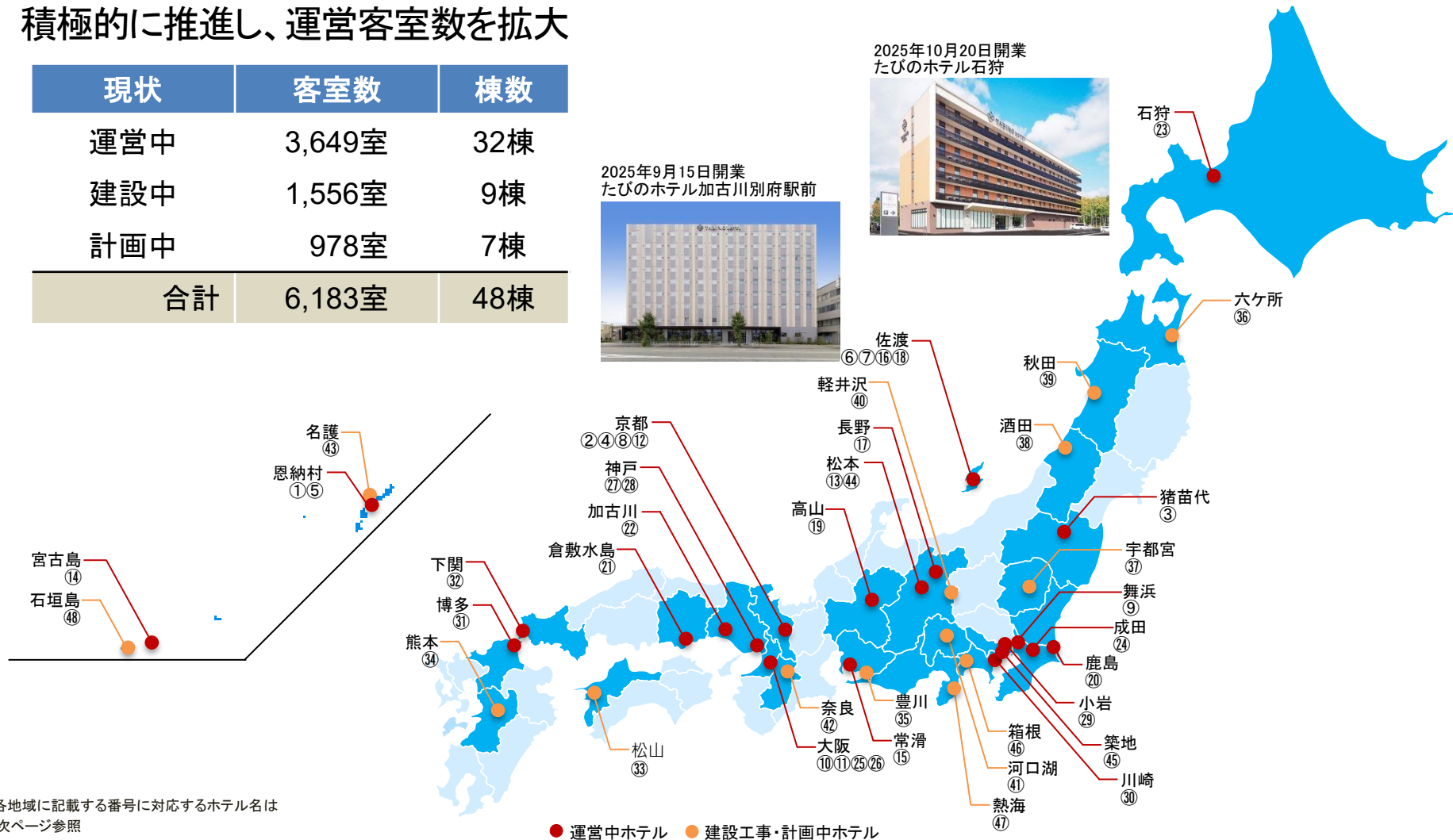
お客様に感動を与える心温かいサービスを提供するとともに、自社開発やM&Aを積極的に推進し、運営客室数を拡大

現状	客室数	棟数
運営中	3,649室	32棟
建設中	1,556室	9棟
計画中	978室	7棟
合計	6,183室	48棟

2025年9月15日開業
たびのホテル加古川別府駅前



2025年10月20日開業
たびのホテル石狩



※各地域に記載する番号に対応するホテル名は
次ページ参照

運営中・建設中・計画中のホテル一覧

運営中ホテル

LUXURY	73室
① オリエンタルヒルズ沖縄	14室
② 四条河原町温泉 空庭テラス京都 別邸	32室
③ 猪苗代 磐梯山麓温泉 静楓亭	11室
④ STITCH HOTEL Kyoto	16室
UPPER	429室
⑤ HIYORIオーシャンリゾート沖縄	203室
⑥ HOTEL OOSADO	72室
⑦ HOTEL AZUMA	52室
⑧ 四条河原町温泉 空庭テラス京都	102室
UPPER MIDDLE	571室
⑨ 日和ホテル舞浜	80室
⑩ 日和ホテル大阪なんば駅前	224室
⑪ 日和ホテル大阪住之江公園駅前	229室
⑫ 日和ステイ京都鴨川	38室
MIDDLE	291室
⑬ たびのホテルlit松本	176室
⑭ たびのホテルlit宮古島・Villa宮古島	115室
ECONOMY	1,727室
⑮ スプリングサニーホテル名古屋常滑駅前	194室
⑯ ドンデン高原ロッジ自然リゾート佐渡	12室
⑰ 長野リンデンプラザホテル	136室
⑱ たびのホテル佐渡・Live佐渡	129室
⑲ たびのホテル飛騨高山	80室
⑳ たびのホテル鹿島	194室
㉑ たびのホテル倉敷水島	155室
㉒ たびのホテル加古川別府駅前	172室
㉓ たびのホテル石狩	175室
㉔ たびのホテルEXpress成田	97室
㉕ ジョイテルホテルなんば道頓堀	53室
㉖ ジョイテルホテル新世界堺筋通	103室
㉗ 神戸プラザホテル(運営受託)	107室
㉘ 神戸プラザホテルウエスト(運営受託)	120室

運営中ホテル

BUDGET	558室
㉙ スカイハートホテル京成小岩駅前	102室
㉚ スカイハートホテル川崎	197室
㉛ スカイハートホテル博多	157室
㉜ スカイハートホテル下関	102室
運営中ホテル 小計	3,649室

建設中・計画中ホテル

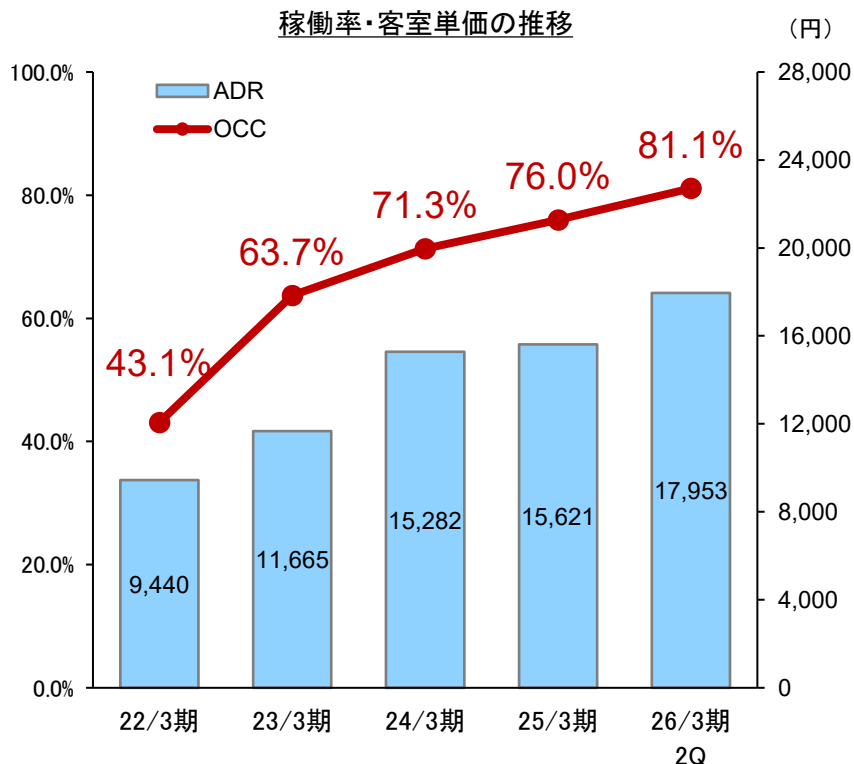
2027年3月期開業予定	1,387室	
㉝ 日和ホテル松山	245室	26年春開業予定
㉞ たびのホテル阿蘇熊本空港	213室	26年春開業予定
㉟ たびのホテルlit豊川	110室	26年秋開業予定
㊱ たびのホテル青森六ヶ所村	210室	26年秋開業予定
㊲ たびのホテル宇都宮ゆいの杜	201室	26年秋開業予定
㊳ たびのホテルlit酒田	175室	26年冬開業予定
㊴ たびのホテルlit秋田駅前	233室	26年冬開業予定
2028年3月期開業予定	678室	
㊵ 日和テラス軽井沢Spa & Resort	81室	
㊶ 日和テラス河口湖(富士山)	134室	
㊷ 日和ホテル近鉄奈良	177室	
㊸ 日和ホテル名護	156室	
㊹ たびのホテルlit松本(増床)	130室	
2029年3月期以降開業予定	469室	
㊺ 築地ホテルPJ	36室	
㊻ 空庭テラス箱根湯本	108室	
㊼ 熱海ホテルPJ	120室	
㊽ たびのホテルlit石垣島	205室	
建設中・計画中ホテル小計	2,534室	
運営中・建設中・計画中ホテル合計	6,183室	

稼働率・客室単価およびセグメント利益の推移



インバウンド効果による高稼働を継続し、さらなるオペレーション力の強化により、関西エリアおよびラグジュアリーホテルを中心に客室単価が上昇

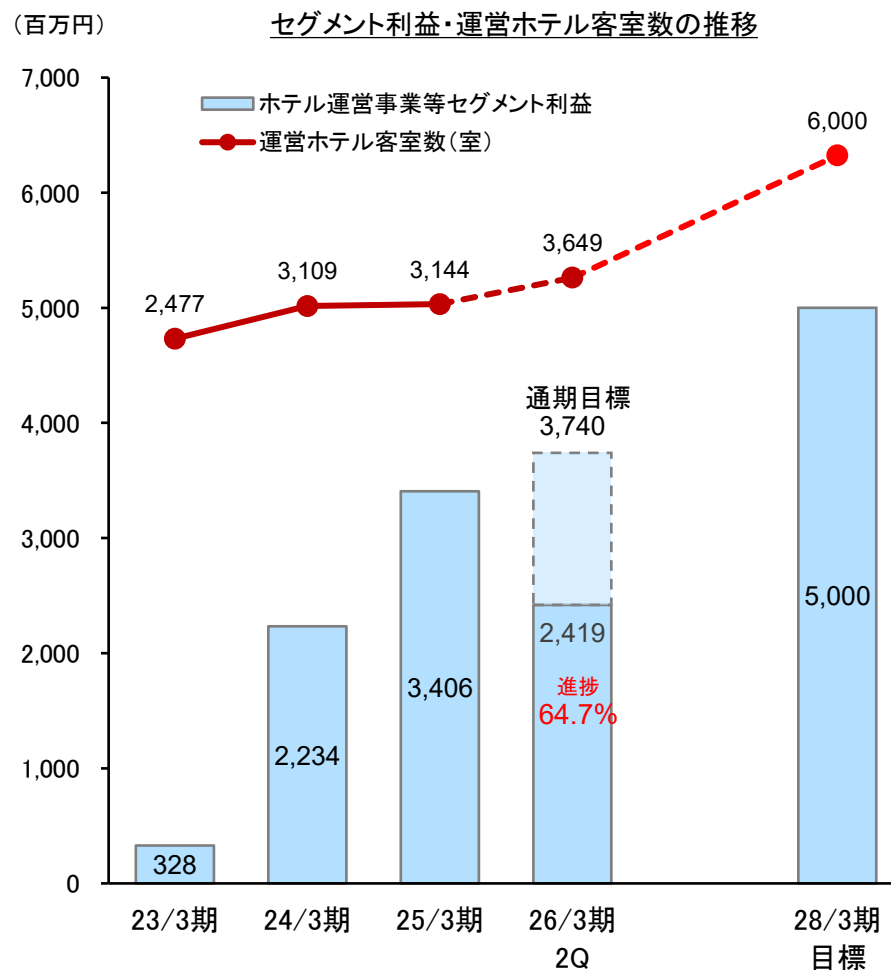
稼働率・客室単価の推移



2025年4月～2025年10月までの稼働率TOP3

1位	日和ホテル大阪なんば駅前	95.5%	
2位	たびのホテル松本	90.5%	102日連続 満室稼働
3位	スプリングサニーホテル名古屋常滑駅前	89.0%	

セグメント利益・運営ホテル客室数の推移



建設分野における基盤強化を目的にM&Aを実施

サッシ・ガラス周りの加工・施工に実績がある大竹建窓グループの株式100%を取得

両社の強みとシナジー



- ✓ 熟練技術者による品質・納期・コスト
- ✓ サッシ・ガラス窓の設計施工実績
- ✓ 自社工場の対応力・供給スピード



SUN FRONTIER

- ✓ 都心中小型ビルの仕入れ力・企画力
- ✓ お客様視点のものづくり力・心温かいサービス
- ✓ 幅広い顧客基盤・グループ会社等のネットワーク

会社概要

名称	株式会社大竹建窓ホールディングス
創業	1960年7月15日
設立日	2017年9月 (HD化に伴う)
本社	東京都品川区北品川5丁目8番19号
グループ 売上高(※)	5,125百万円
従業員数(※)	115名 (グループ5社合計)

(※)2025年3月期実績 売上高は上場会社基準(収益認識基準や発生主義の適用等)の適用や当社監査を実施する前のグループ5社の財務諸表合算数値です

業績見込み

- ✓ 2025年10月1日に当社が株式会社大竹建窓ホールディングスの株式100%を取得しております。
- ✓ 2026年1月1日(第4四半期)より当社連結業績へ取り込む予定です。

両社がもつ強みをかけあわせ、都心中小型ビルのリプランニング等の商品化力を高めると共に、建築関連分野における事業成長を図る体制を構築



資本コストや株価を意識した経営

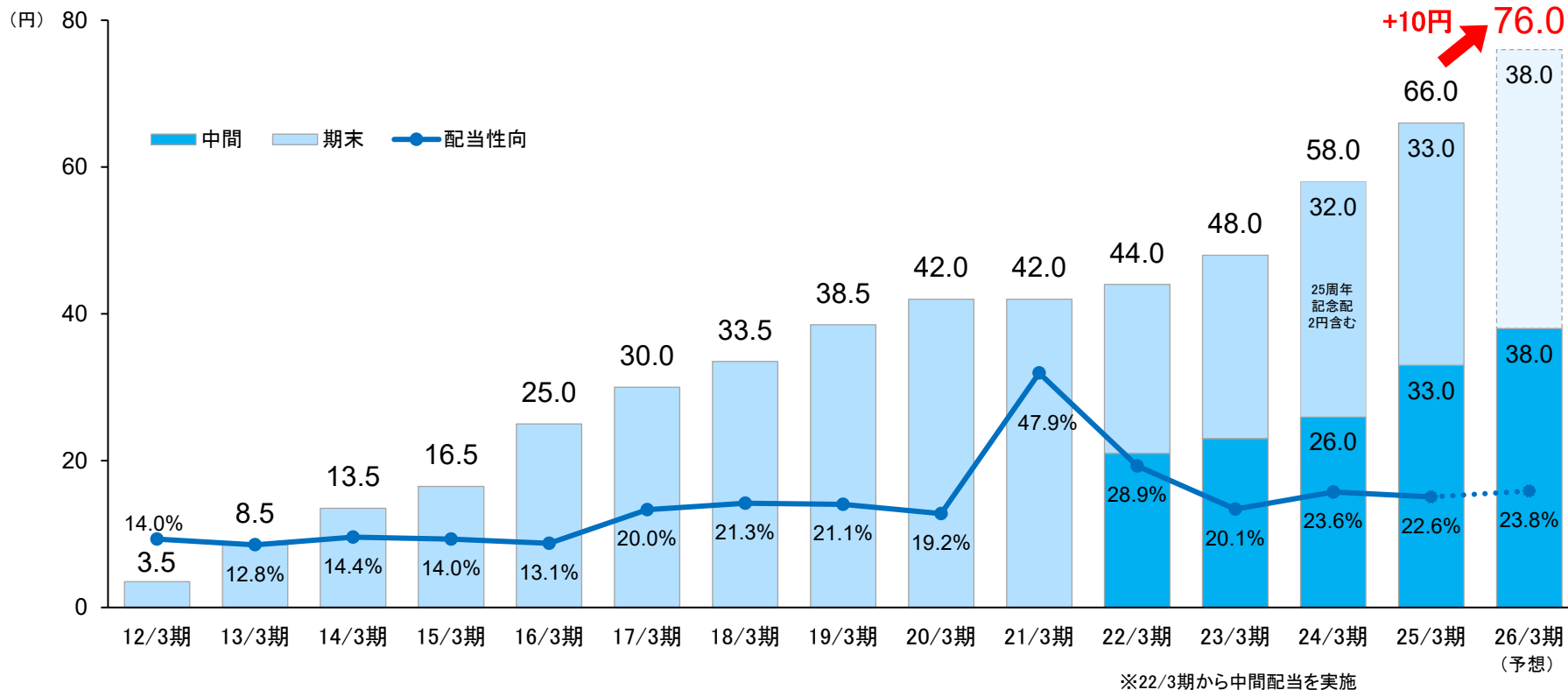


SUN FRONTIER

株主還元 - 配当 -

期初の予想通り、中間配当は**38.0円**（中間配当効力発生日：**2025年12月2日**）

通期配当は、同額維持となった21/3期を挟んで13年連続の増配を予想

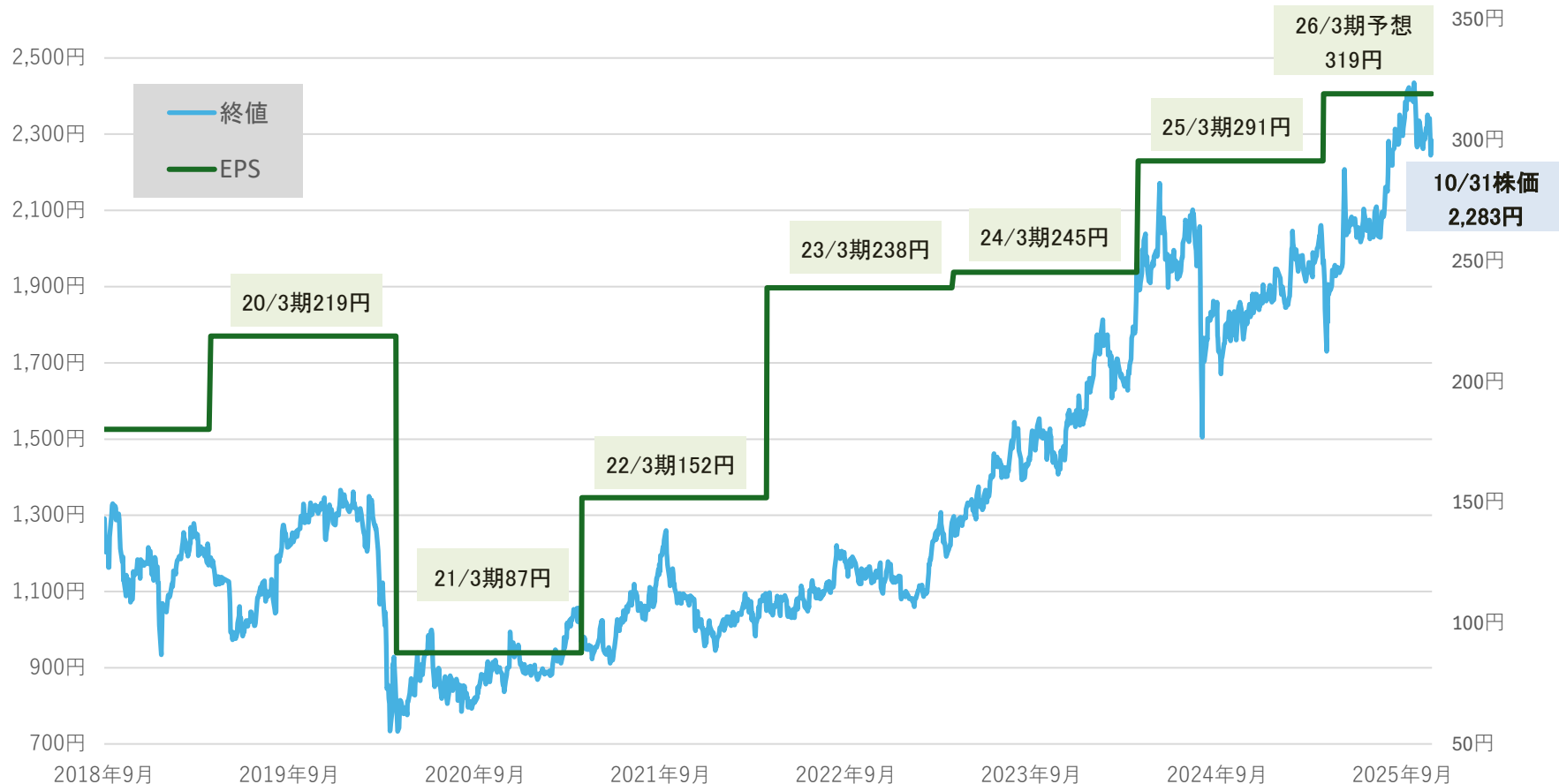


株主還元 の 基本方針

- ①長期的かつ安定的な利益還元に努める
- ②将来の成長に向けて積極果敢に挑戦する投資資金を確保する
- ③財務基盤の安定性を維持する

株価等の推移(2018年～2025年)

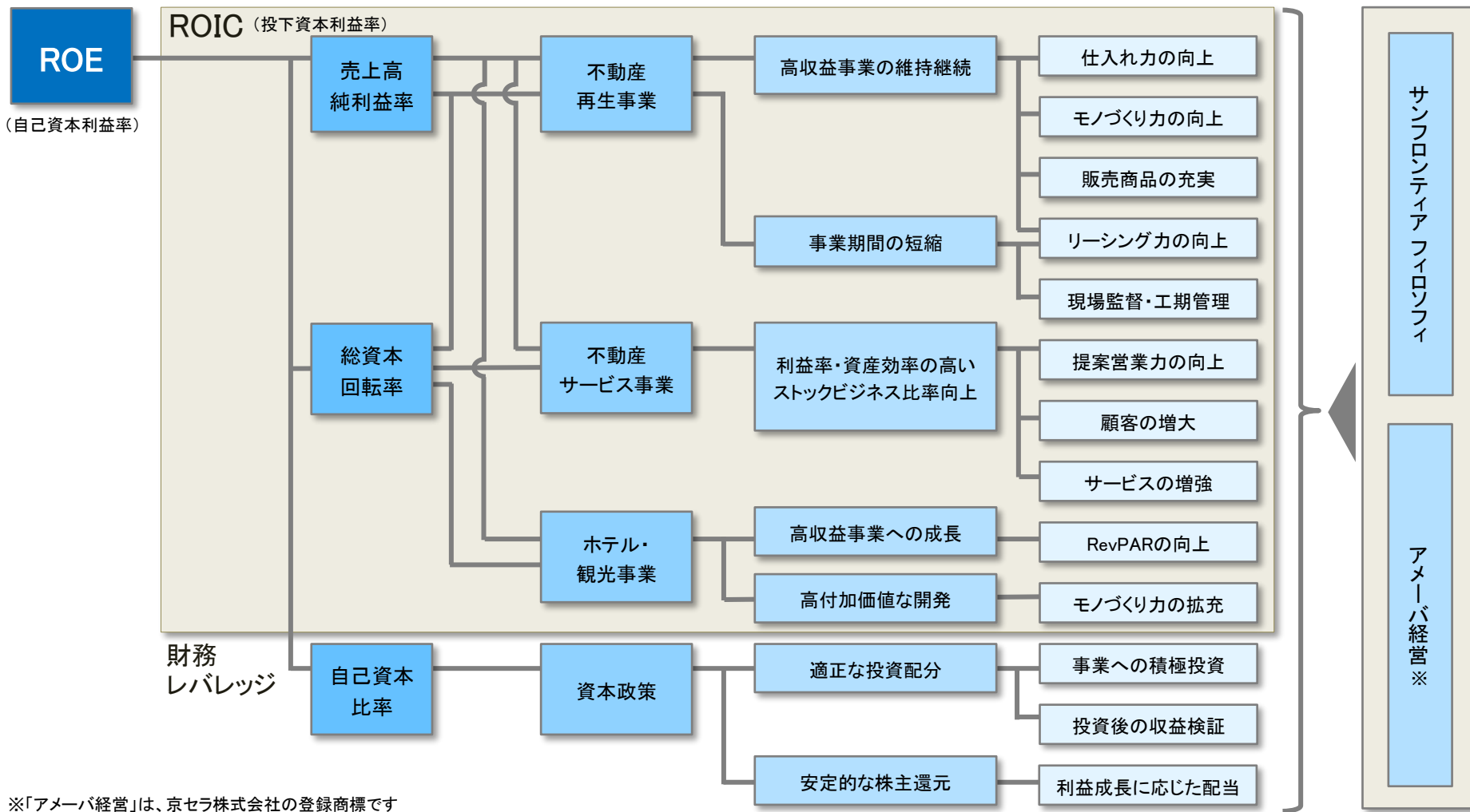
EPSの持続的な成長を通じ、株主価値向上と安定的な資本政策の両立を図ってまいります



(※)EPSの算出にあたってはCBの転換等による潜在株式は算定の基礎に加えておりません。

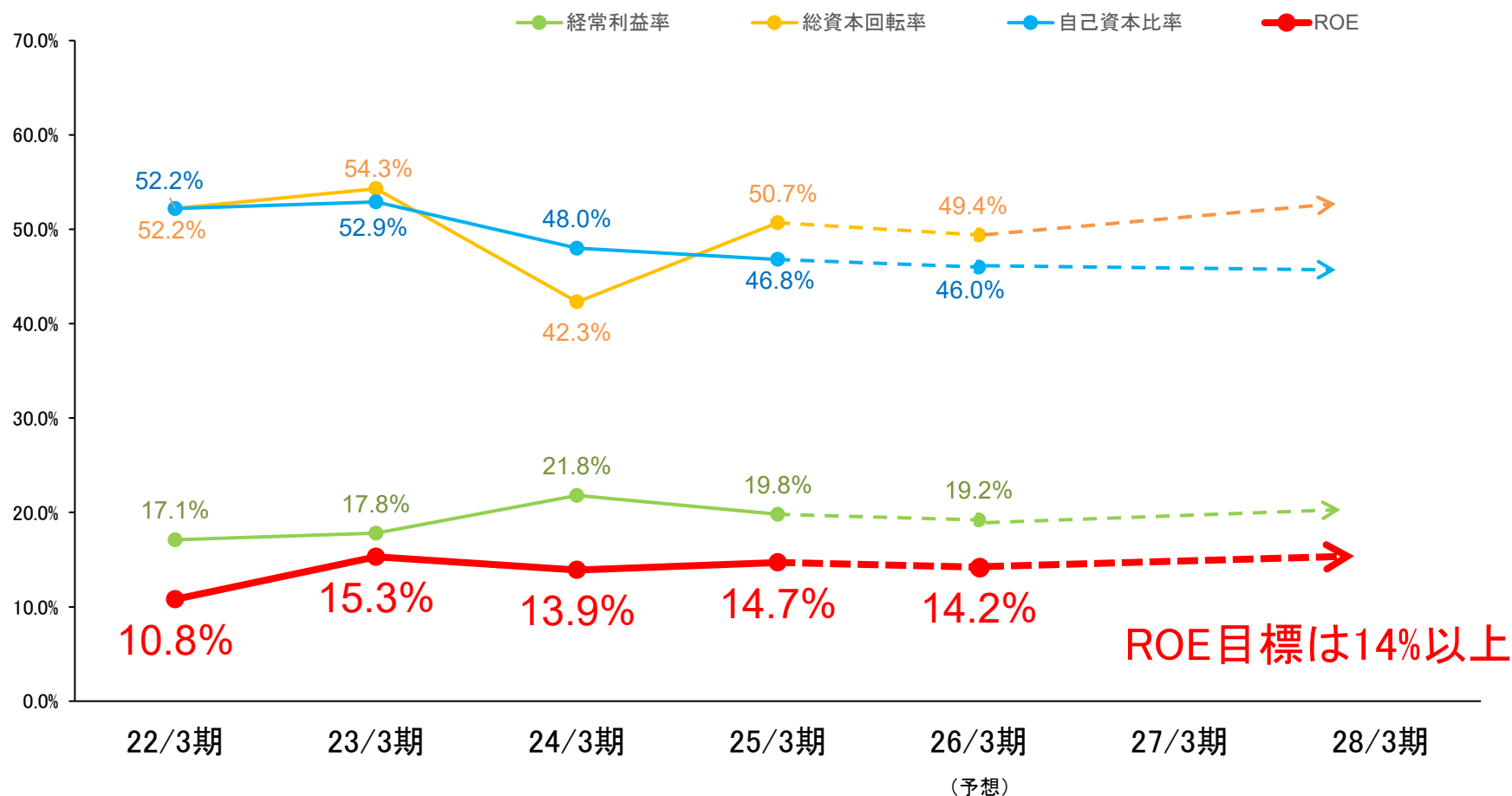
ROE向上ドライバー

フィロソフィとアメーバ経営の浸透が、社員のエンゲージメントを高め、全員参加型経営によって事業を推進、財務規律を守りながら、ROICを高め、ROEの向上を目指す。



※「アメーバ経営」は、京セラ株式会社の登録商標です

各指標とROEの推移

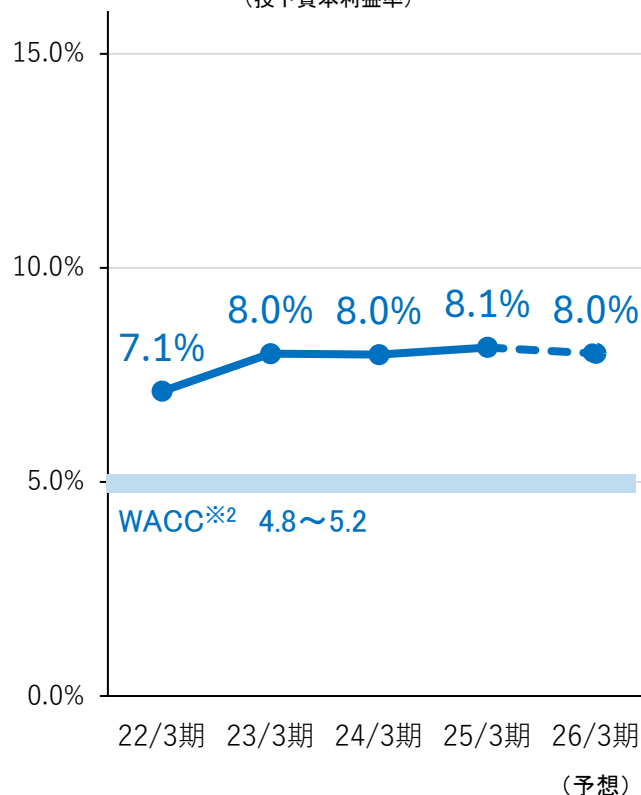


資本コストを上回る収益性を継続

ROICがWACCを上回り続けることで、ROEが株主資本コストを上回り続け、PBRが向上する

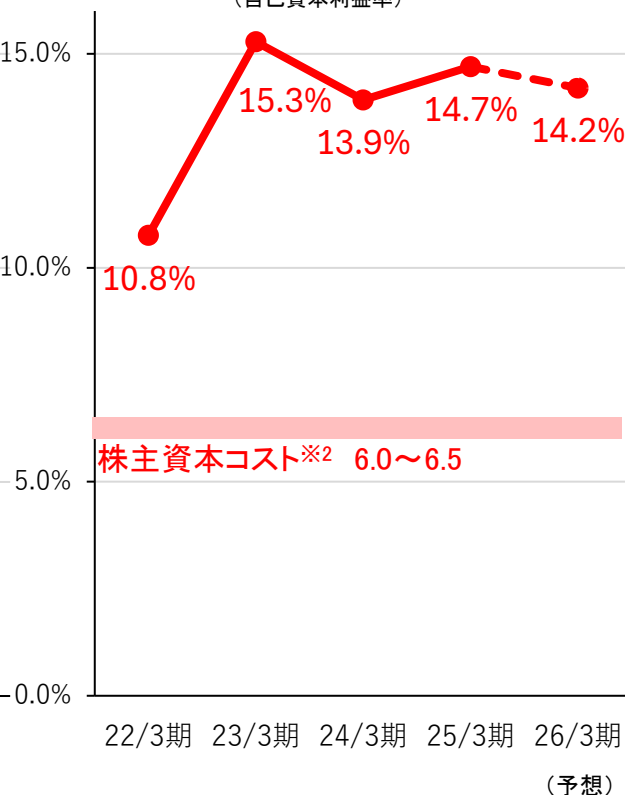
ROIC

(投下資本利益率)



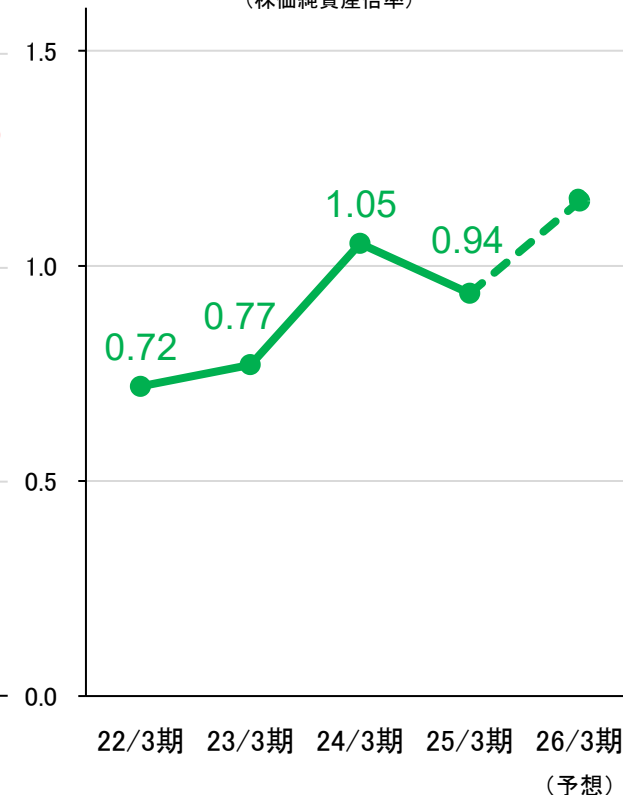
ROE

(自己資本利益率)



PBR ※1

(株価純資産倍率)



※1 PBRは、各期末時点の数値

※2 株主資本コストは、Capital Asset Pricing Modelで算出。株主資本コストは過去4期実績の中央値と同様に6.0~6.5、WACC(加重平均資本コスト)は過去4期実績の中央値と同様に4.8~5.2で推移していくことを想定。

資本市場との積極的な対話を図る

サンフロンティアIRサイト 

主なIR活動の実績		2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
決算説明会	代表取締役社長 齋藤 清一 が、毎四半期 開催	4回開催	4回開催	4回開催 (予定)
IRミーティング	代表取締役社長 齋藤 清一 と、IR担当者が個別に随時実施	延べ68回	延べ82回	延べ39回 (2Q時点)
個人投資家説明会	25/3期は、大和IR主催のオンライン説明会にて実施	1回	1回	-
物件見学会 ※セルサイドアナリスト・機関投資家向け	RP物件内覧会へ招待	9回	5回	2回(2Q時点)
	貸会議室見学会へ招待	1回	1回	-

IR資料の開示状況	
決算短信	日本語、英語、中国語(サマリーのみ)を同時開示
決算説明資料	日本語、英語、中国語を同時開示
決算説明会 オンデマンド放送・スクリプト	日本語(動画)、英語(音声)を当日開示
有価証券報告書	日本語、英語を開示
株主総会招集通知	日本語、英語を開示
アナリストレポート	FISCO 【日本語のみ】  Shared Research 【日本語】  【英語】 

株主優待制度	
制度概要	保有株数・保有期間に応じて、当社グループ会社運営のホテルご優待割引券を贈呈
利用期間	発行年の7月1日から翌年の6月30日までの1年間
制度内容	詳細につきましては、株主優待制度のHPにてご確認ください。 https://www.sunfrt.co.jp/ir_info/stockholder_benefit_plan/ 

統合報告書2025の発行

財務・非財務情報の開示を拡充し、より透明性の高い情報発信を推進

当社グループとして初の統合報告書を2025年9月に発行。
創業以来大切にしてきた利他の考え方に加え、経営理念や成長戦略、サステナビリティ経営など、財務情報と非財務情報を統合し、将来の企業価値向上に向けた道筋を包括的に発信

<コンテンツ>

SECTION 01 サンフロンティアの価値観

当社が大切にしている価値観について、歴史を振り返り深掘り

SECTION 02 企業価値の創造と目指す姿

トップメッセージや価値創造プロセスなど、目指す姿を詳しく説明

SECTION 03 価値創造の実践

事業セグメント別成長戦略や新たな挑戦をする社員へのインタビュー

SECTION 04 価値創造を支える「利他」の基盤

ESGに分類し人的資本鼎談や社外取締役インタビューなども交えて掲載

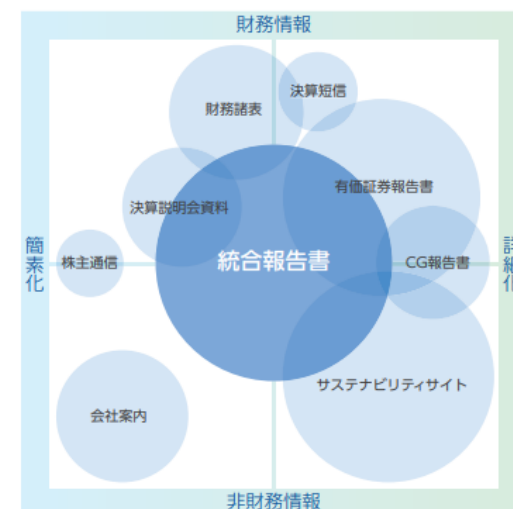
SECTION 05 価値創造の記録

財務と非財務のヒストリカルデータ

表紙



情報開示体系

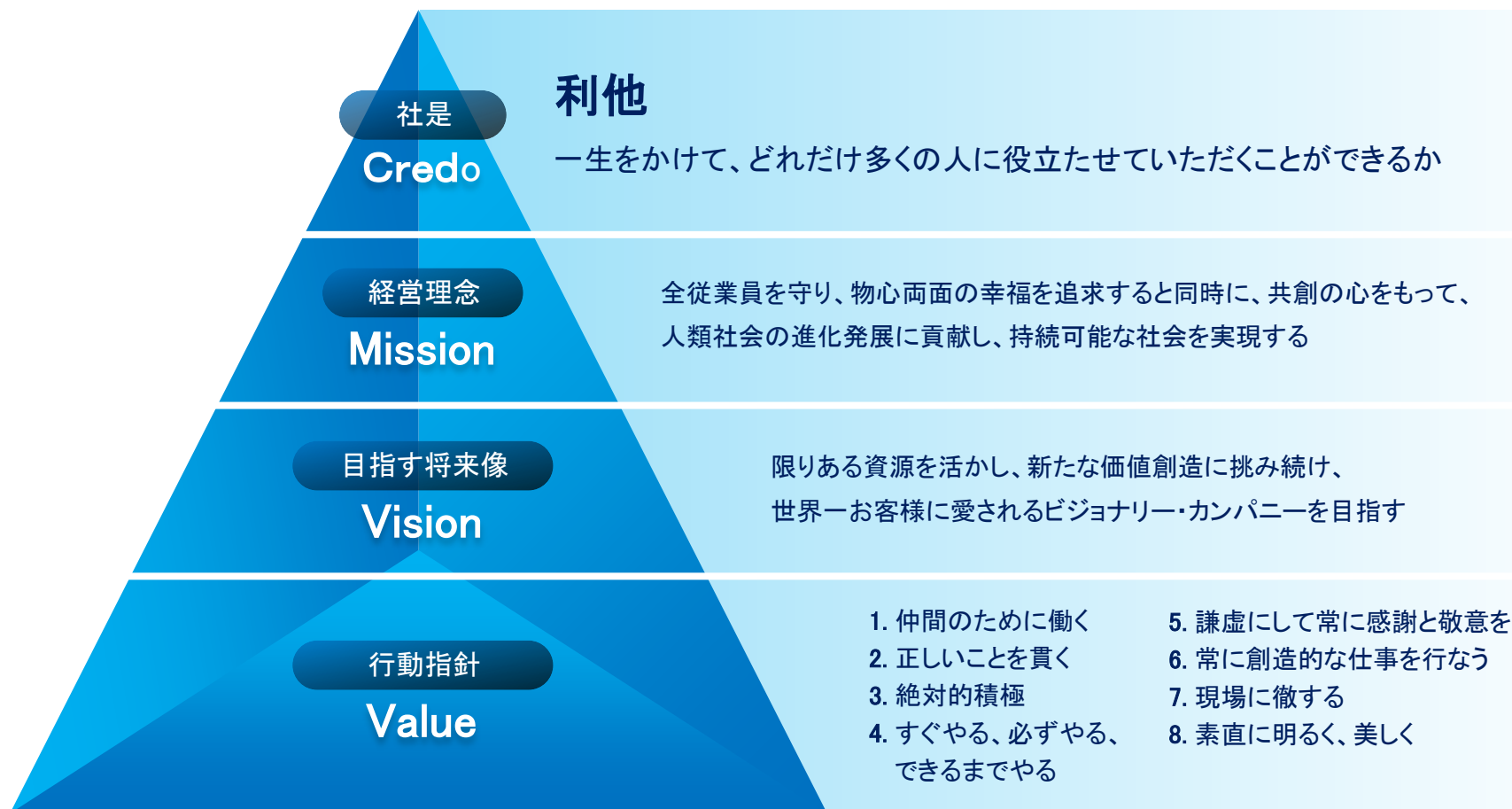




経営理念・ビジネスモデル

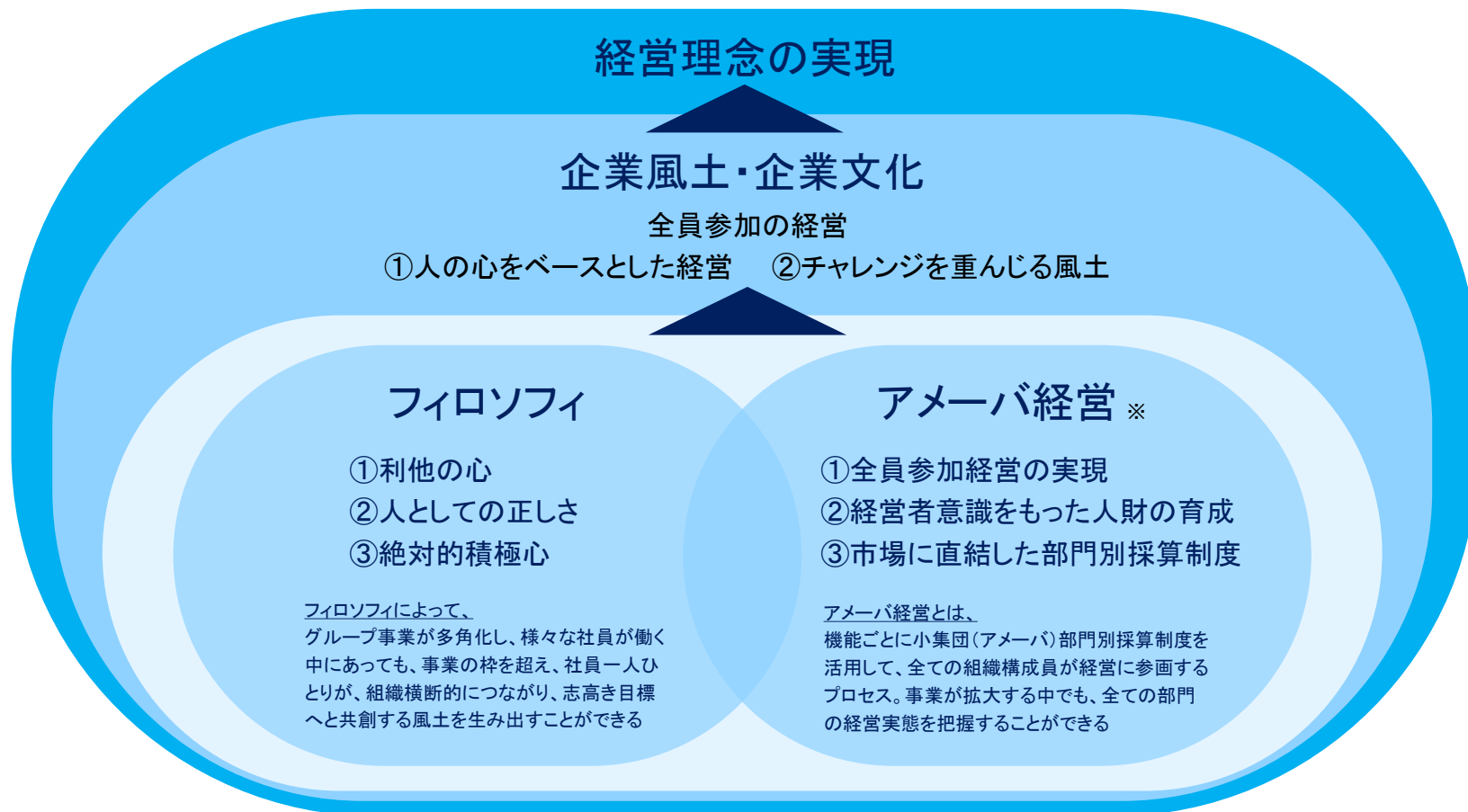


SUN FRONTIER



全従業員が共有する価値観と行動指針、企業風土の根幹

フィロソフィとアメーバ経営の両輪で、善き企業風土・企業文化を作り、経営理念を実現



※「アメーバ経営」は、京セラ株式会社の登録商標です



求める人財像

「利他の心」と「フロンティア精神」を併せもった人財

人財育成方針

利他の価値観を共有する仲間と共に、持続可能で豊かな社会の実現に向けて、フロンティア精神を持って、新たな領域を切り拓いていける人財を育成します。

将来世代にも継承することができる社会の実現を目指し、周囲の人を思いやる優しさ与人としての正しさを貫ける強さを合わせ、未経験の領域にも果敢に挑戦する人財を育成します。

環境整備方針

「働きがい」「創造性」「成長機会」のある職場環境をつくります。全社員が自ら目標を掲げ、その目標に向かって意欲的に取り組み、そしてお互いに信頼し合い新たな価値創造に挑み続ける、「共創」の組織を実現します。

- 働きがい** ——— 挑戦と成長を後押しし、挑戦した仲間を称える風土
- 創造性** ——— 未来を構想し、新たな価値創造を目指す風土
- 成長機会** ——— 学びたい意欲を刺激し、高い目標に取り組む風土

人財育成方針

多様性の尊重と活用

環境整備方針

働き甲斐、創造性、成長機会のある職場作り

施策内容

- 社員のライフステージに合わせた職場環境整備と柔軟な研修機会の提供
- 事業の多角化と組織の拡大に向けて、アメンバー人財を育成、輩出
- 次世代リーダー育成プログラムの構築、外部研修への支援制度等を充実させ、所定労働時間に対する研修時間割合は12%以上
- DX活用、業務プロセス改善、個々の能力向上し、時間当たり経常利益額を前年比で増加

重点施策

人財基盤の強化

お客様視点のものづくりと心温かいサービス

本業連携多角化の推進

中計の基本方針

お客様視点のものづくりと心温かいサービスで、本業連携多角化を推進し、社会課題の解決に取り組む

サステナビリティ・ビジョン

サステナビリティレポートはこちらから



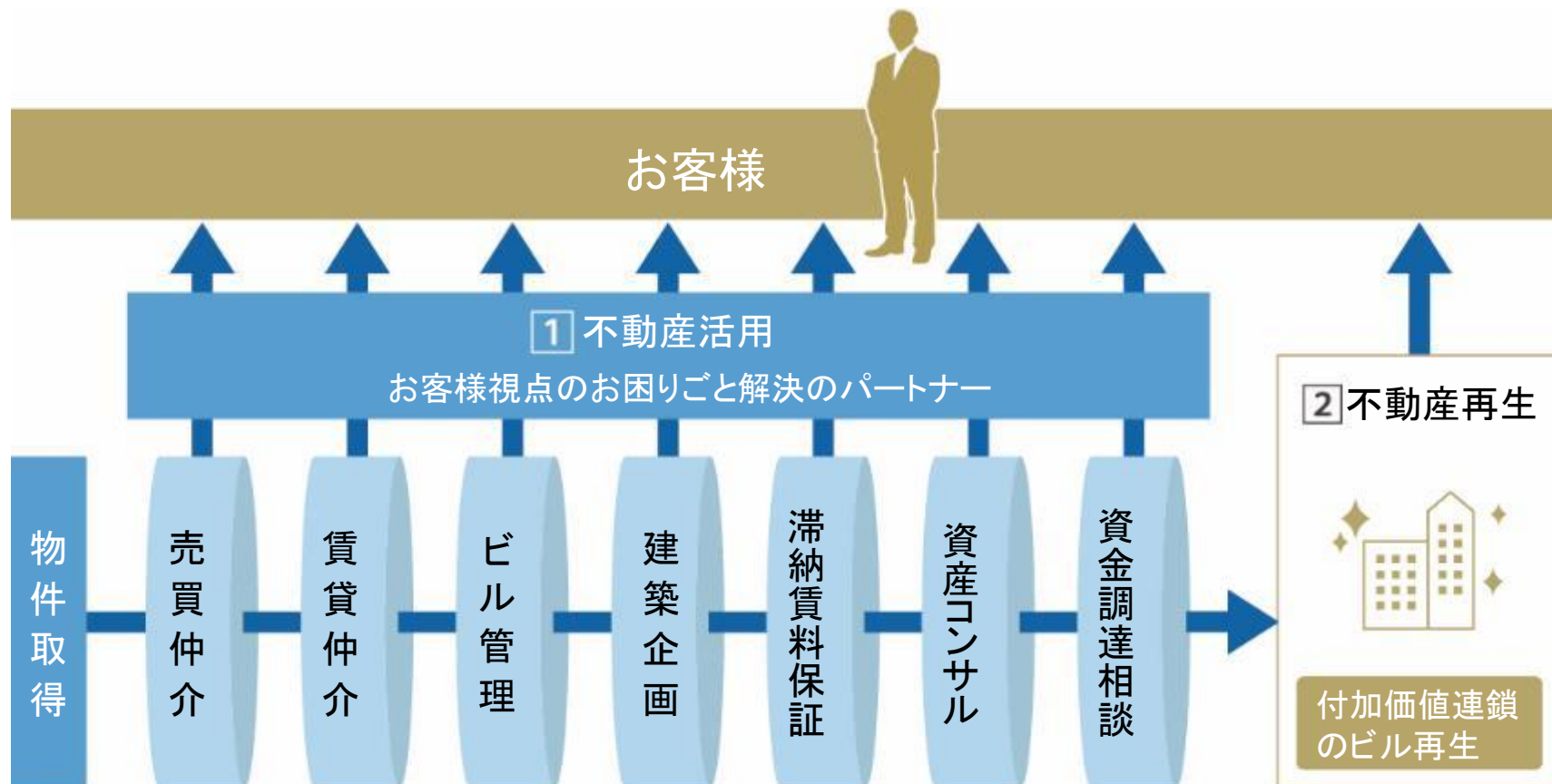
私たちは、社是である利他の心を大切に、事業活動を通して持続可能な社会の実現に貢献していきます。

重要課題	解決すべき社会課題	主要施策	具体的施策	指標と目標 (KPI)	関連するSDGs
環境保護	温室効果ガス排出による地球温暖化	■ 事業活動における温室効果ガス排出量の削減	- 不動産再生の推進による工事での温室効果ガス排出量の抑制 - 不動産再生における工事で排出する温室効果ガスをクレジットによるオフセット - 自社での業務活動における温室効果ガス排出量の削減	- ビルの建替え工事と比較した二酸化炭素排出量平均12%以上抑制 - 不動産再生における工事で排出する二酸化炭素排出量を100%オフセット - グループ全体の温室効果ガス排出量削減目標 (Scope1,2) 2022年度比 2030年22%削減 2050年カーボンニュートラル	 
	省資源と廃棄物の削減(生物多様性)	■ 不動産の健康長寿命化 ■ 不動産再生における環境負荷低減	- 不動産再生工事によるビルの経済的耐用年数の延長 - 不動産のトータルサポートにより築年数が長く経過したビルの稼働率を向上 - 不動産再生の推進による資源投入量／廃棄物の抑制 - 環境に配慮したビル・オフィスづくり(環境認証取得への取り組み)	- 経済的耐用年数平均30%以上延長 - 築30年超ビルの平均稼働率90%以上 - 物件売却後のビル管理継続90%以上 - ビルの建替え工事と比較した資源投入量40.9%・廃棄物49.3%抑制(理論値) - 新築オフィス開発における環境認証取得率100%	  
地域創生	地域経済の活性化	■ 経済成長に資する「働きがい」「創造性」のあるビル・オフィス・空間づくり	Well-beingに配慮した不動産再生の推進	- 社内基準『サンフロンティア・ウェルネス・スコア (SWO)』を超える物件の新規供給割合 2025年度 50%以上・2030年度 70%以上 - テナント様アンケート(満足度調査)毎年実施(自社保有物件)	 
	甚大化する自然災害への対応	■ 地域連携による防災、減災	- 防災用具ないし設置スペースを設けたセットアップオフィスの提供 - テナント様の防災意識の向上に資する情報提供	- 防災用具ないし設置スペースを設けたオフィスの区画数 2027年度50区画・2030年度75区画 - 専用ホームページへの防災情報掲載100%(自社保有物件)	
人財育成	少子高齢化にともなう生産年齢人口の減少(実質労働力減少)とジェンダーギャップの解消	■ 多様性の尊重と活用 ■ 「働きがい」「創造性」「成長機会」のある職場づくり	- 社員のライフステージに合わせた職場環境整備と柔軟な研修機会の提供 - 次世代リーダー育成プログラムの構築、外部研修への支援制度等 - DXの活用、業務プロセス改善、個々の能力向上 - 従業員の心身の健康促進を目的としたセミナーを開催し、社員一人一人が心身ともに健康で、仕事に取り組める環境づくりを進める	- 女性管理職比率 2035年度 15%以上 - 所定労働時間に対する研修時間割合12%以上 - 時間当たり経常利益額を前年比で増加させる - 産業医等によるセミナーの開催年2回以上	  

※KPIを定めている具体的施策を抜粋

オフィス事業における強み

仕入れから開発、入居、販売、そしてサポートまでを内製化し、
お客様の意向を細かく把握することで、様々なお困りごとを解決する

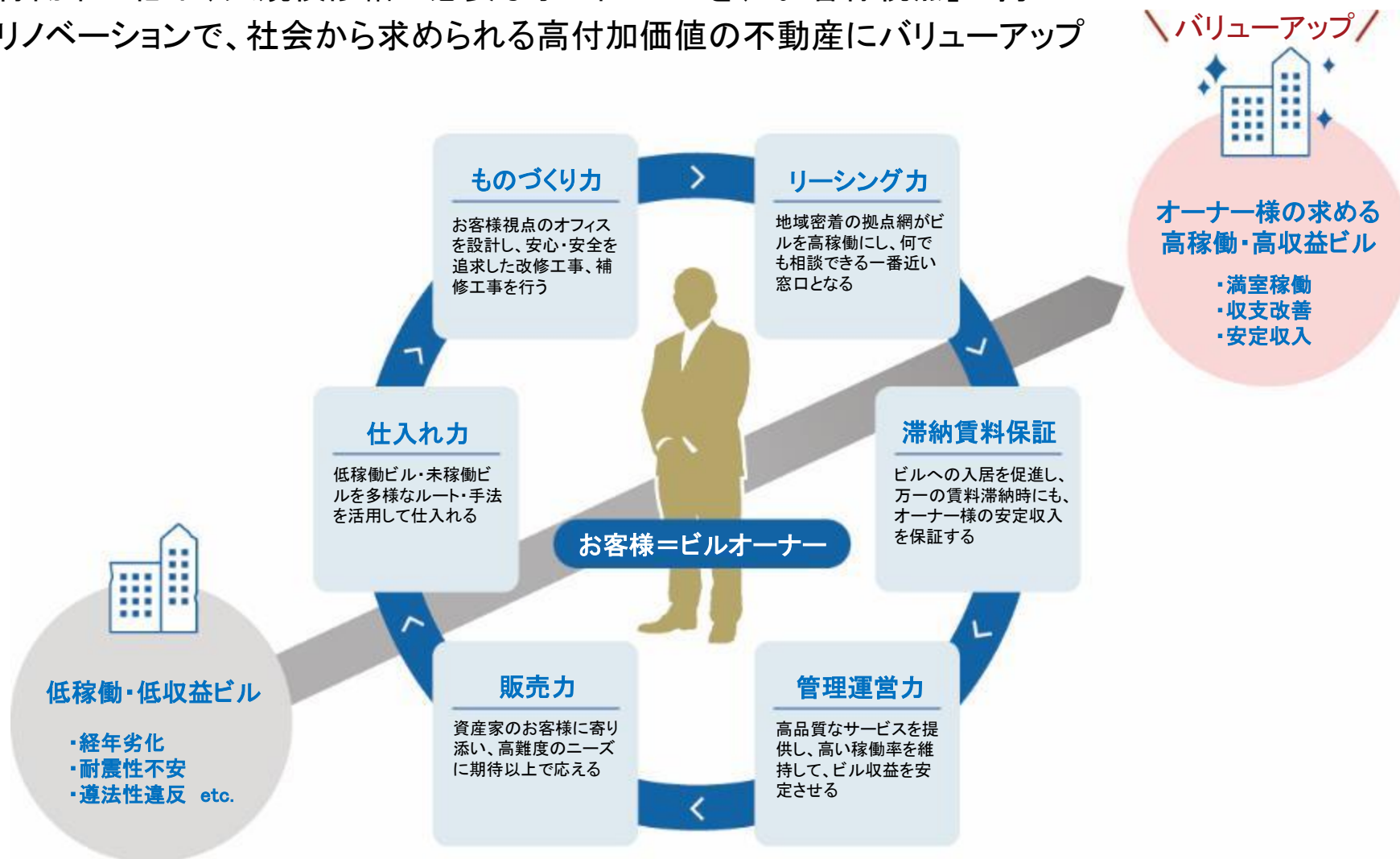


① 不動産活用：現場でお客様に寄り添いお困りごとを解決。お客様の声から付加価値の源泉を掴む。

② 不動産再生：資産価値向上のノウハウや掴んだニーズを再生ビルに反映、価値を高め販売。

リプログラミング事業のビジネスモデル

稼働率が低下、大規模修繕が必要なオフィスビルを、「お客様視点」に拘ったリノベーションで、社会から求められる高付加価値の不動産にバリューアップ



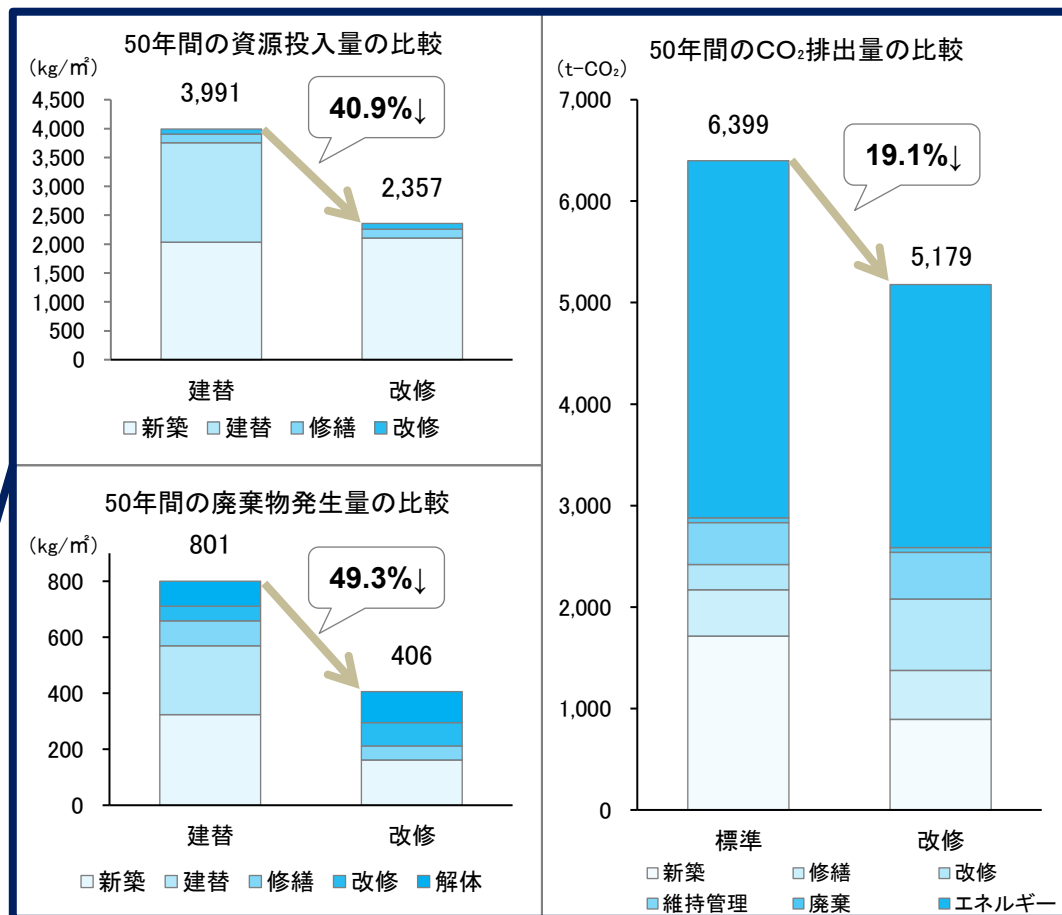
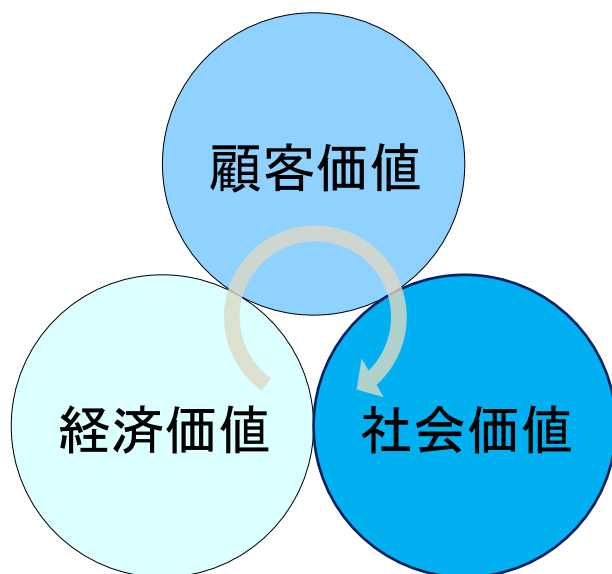
リプランニング事業 顧客価値と社会価値の双方を創出

お客様の事業への貢献を通して、社会課題の解決に寄与

リプランニング事業を通して、
ビルオーナー様、入居テナント企業様の事業の成長
に貢献



限りある資源を活かし、世界を笑顔と感動で満たす！
未来価値創造に挑み続ける企業グループへ



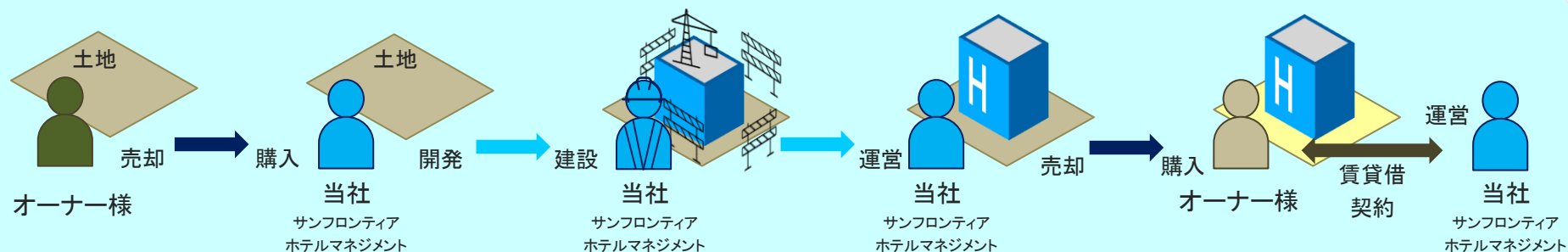
<前提条件・根拠> 築30年、約3,000m²の事務所ビルを想定、50年間(SRCの事務所用の耐用年数)における環境貢献度を日本建築学会LCAツール(※)に基づいて試算
・建替:「35年毎に建て替えを行う場合」・改修:「老朽化ビルを壊さず再生(ロングライフビル)」・標準:「築30年の未改修ビルを想定」

※日本建築学会「建物のLCAツールVer5.0ー温暖化・資源消費・廃棄物対策のための評価ツール」株式会社イー・アール・エスにご協力いただき、試算

ホテル開発事業・ホテル運営事業

開発したホテルを運営したのちに売却

売却後は賃貸借して運営をさせていただき、収益不動産として資産形成に貢献



※土地を取得して開発する方法以外に、土地および建物賃貸借またはリースするなど、場合に応じて最適な開発方法を選択

開発・運営ホテル事例(一部)



日和ホテル舞浜
2017年7月開業、売却済み運営中



日和ホテルなんば駅前
2019年5月開業、運営中



たびのホテル倉敷水島
2020年2月開業、運営中



たびのホテル鹿島
2020年4月開業、運営中



HIYORIオーシャンリゾート沖縄
2021年2月開業、売却済み運営中



たびのホテルit宮古島
2021年6月開業、運営中



たびのホテルit松本
2021年7月開業、運営中



空庭テラス京都 別邸
2022年6月開業、運営中

ホテルを中核とした地域創生の取り組み

観光で地方を元気に！ 地方が元気になれば、日本が元気になる！

日本は美しい自然をはじめ、歴史と文化、食事や温泉、おもてなし、おもてなし、ローカルな祭りやアウトドアなど、さまざまな魅力がたくさん。訪日外国人も急増し、国内各地域への関心が高まる中、当社ではまず縁の深い佐渡から事業をスタートし、雇用を創出。

新潟県 佐渡島



たびのホテルLive 佐渡

たびのホテル佐渡

世界文化遺産
相川鶴子金銀山

HOTEL OOSADO

HOTEL AZUMA

民泊 ル・ブルー佐渡SAWANE

ドンデン高原ロッジ

両津港

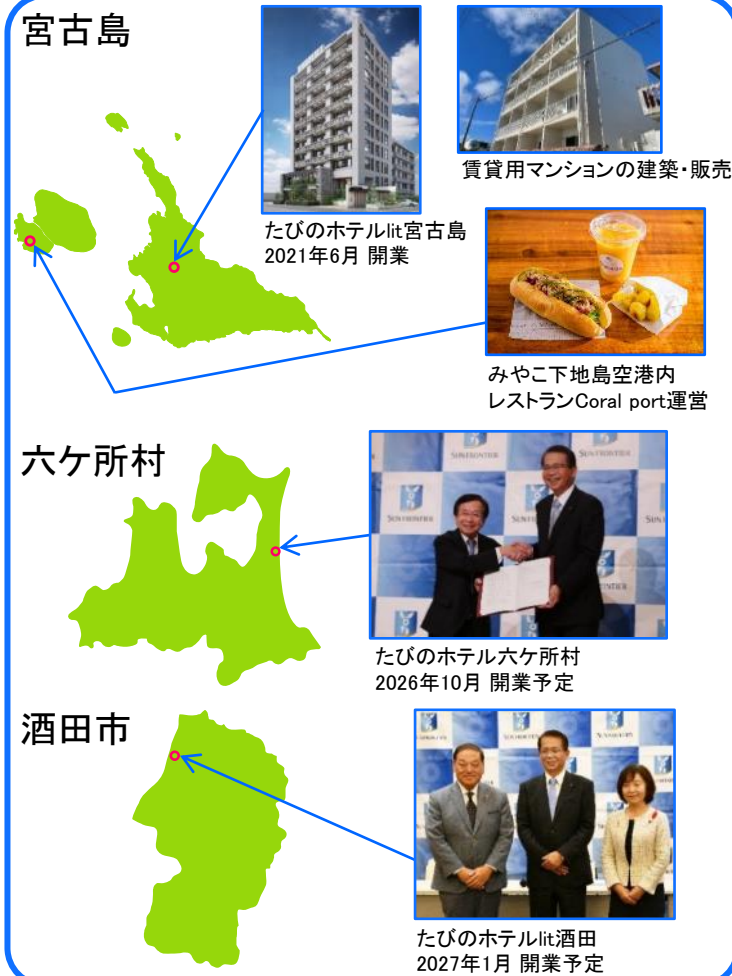
気軽にレンタカー
Kiganuni Rent a Car

佐渡アウトドアベース

世界文化遺産
西三川砂金山

おけさ観光タクシー

宮古島



賃貸用マンションの建築・販売

たびのホテルit宮古島
2021年6月 開業

みやこ下地島空港内
レストランCoral port運営

六ヶ所村

たびのホテル六ヶ所村
2026年10月 開業予定

酒田市

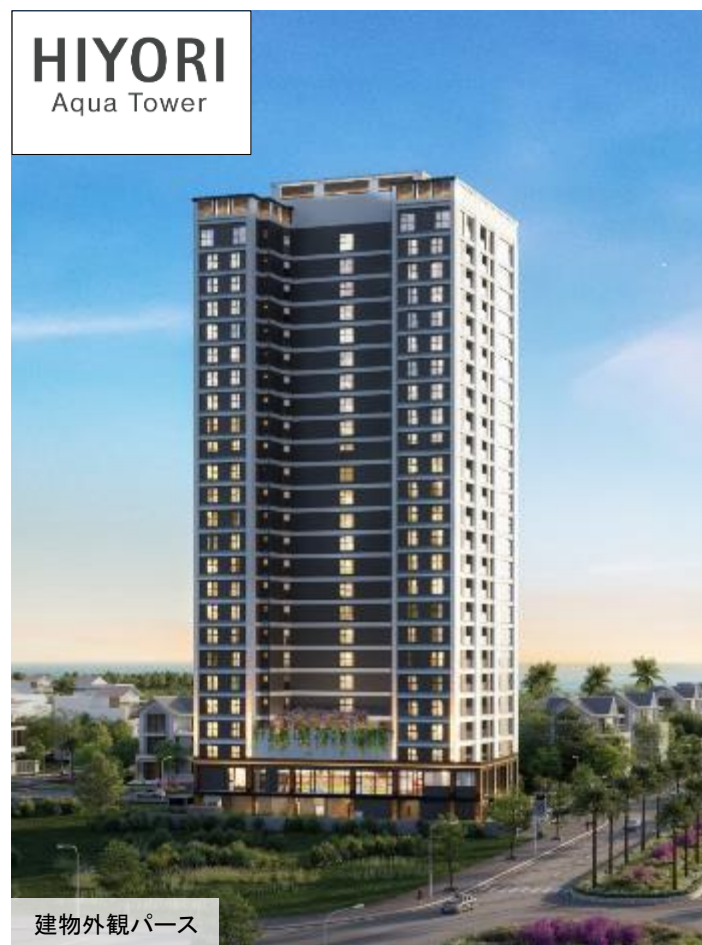
たびのホテルit酒田
2027年1月 開業予定

ベトナム HIYORI Aqua Tower PJの工事が進捗

分譲マンションプロジェクト2号案件の工事が進行中



内装パース



地上25階、地下2階 延床面積: 24,498㎡
住宅202戸 (1LDK: 22区画、2LDK: 176区画、3LDK: 4区画)



参考資料

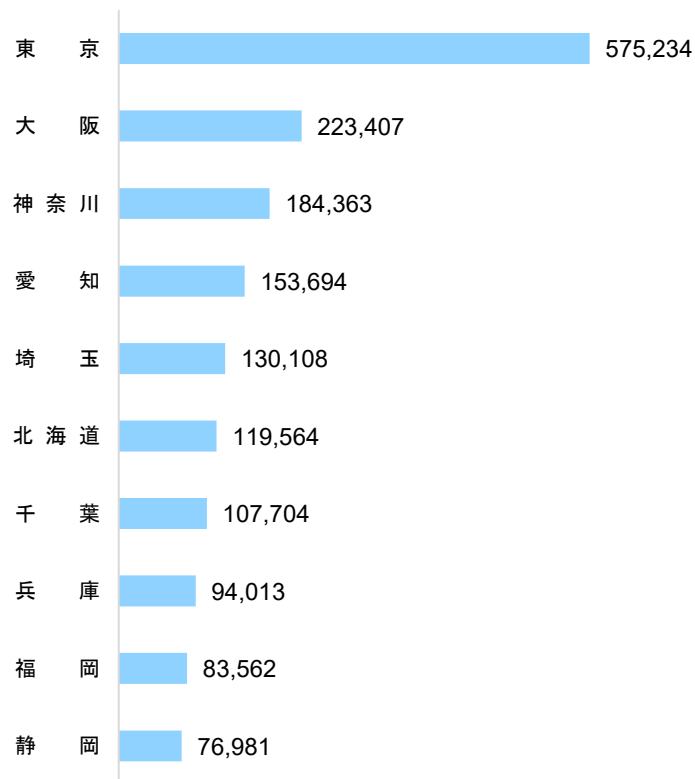


SUN FRONTIER

都道府県別の法人数と東京23区内オフィスビル棟数

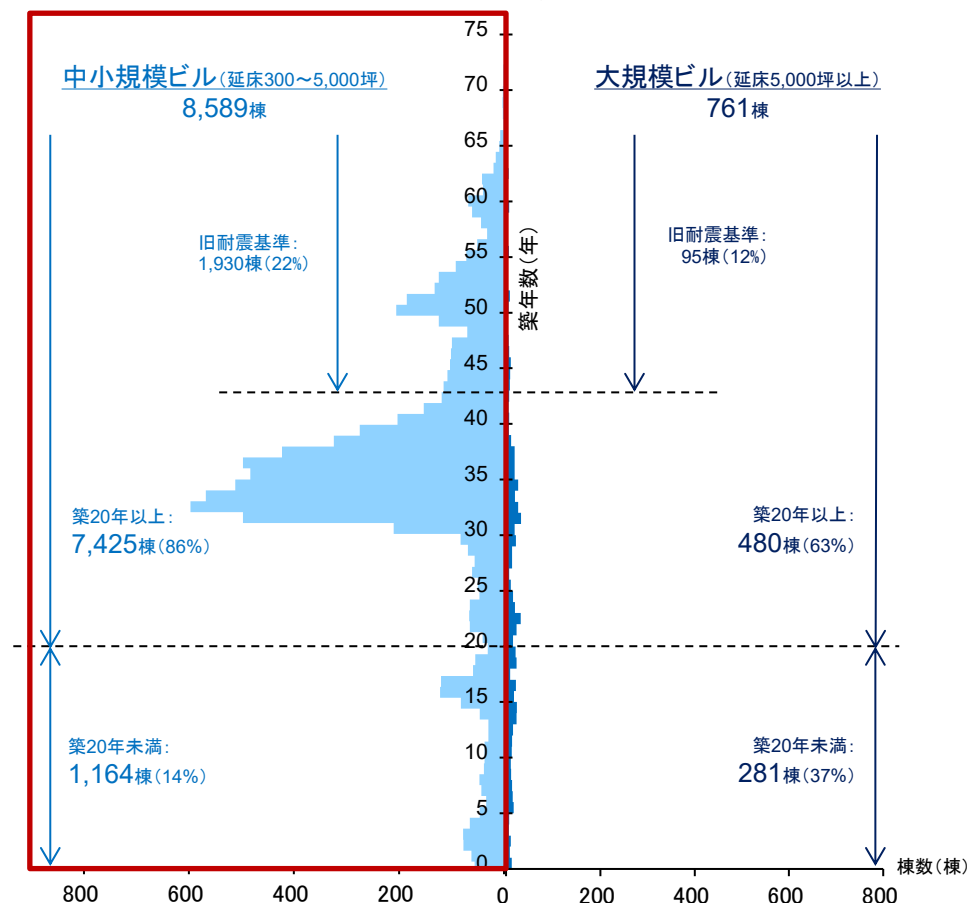
企業が集積する東京では、中小型ビルの老朽化が進む中、資源の無駄遣いを抑えた改修や建て替え需要が強い

都道府県別法人数 上位10都道府県



出典:国税庁「都道府県別法人数等の状況」を基に当社作成

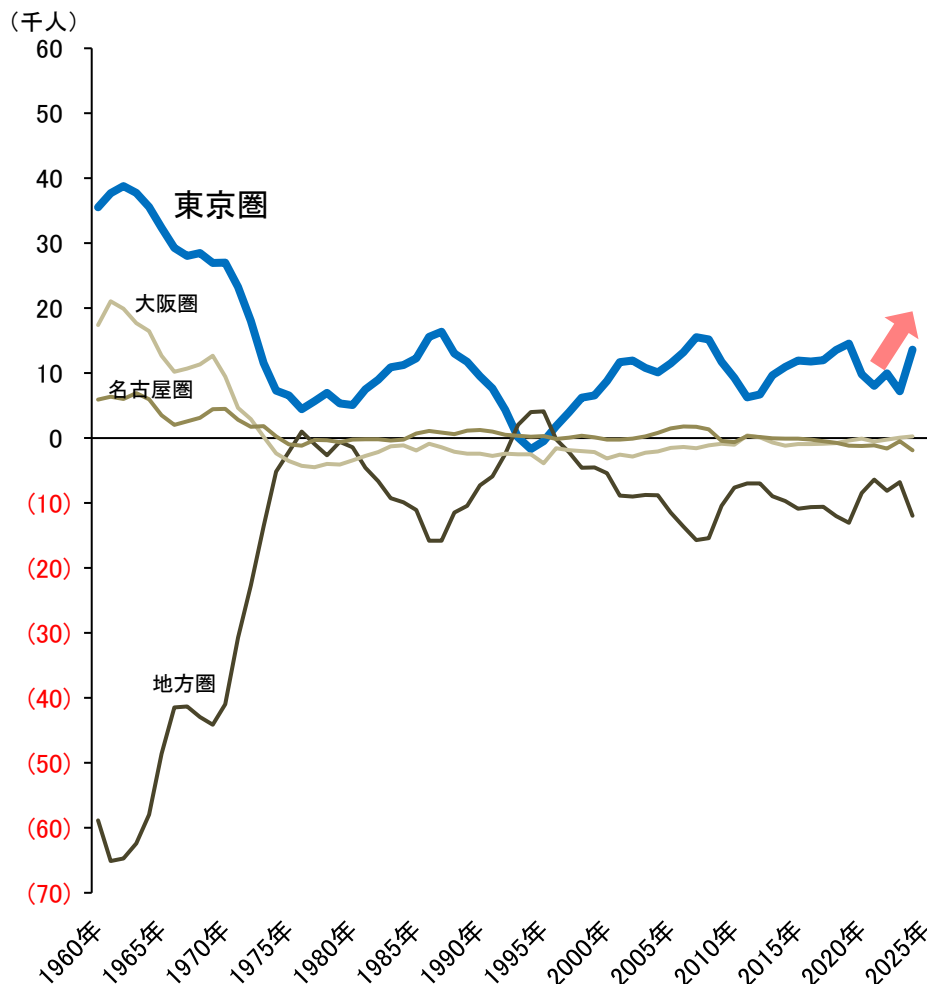
東京23区 9,350棟



出典:「東京23区オフィスビルピラミッド2025(棟数ベース)」(ザイマックス不動産総合研究所)を基に当社作成

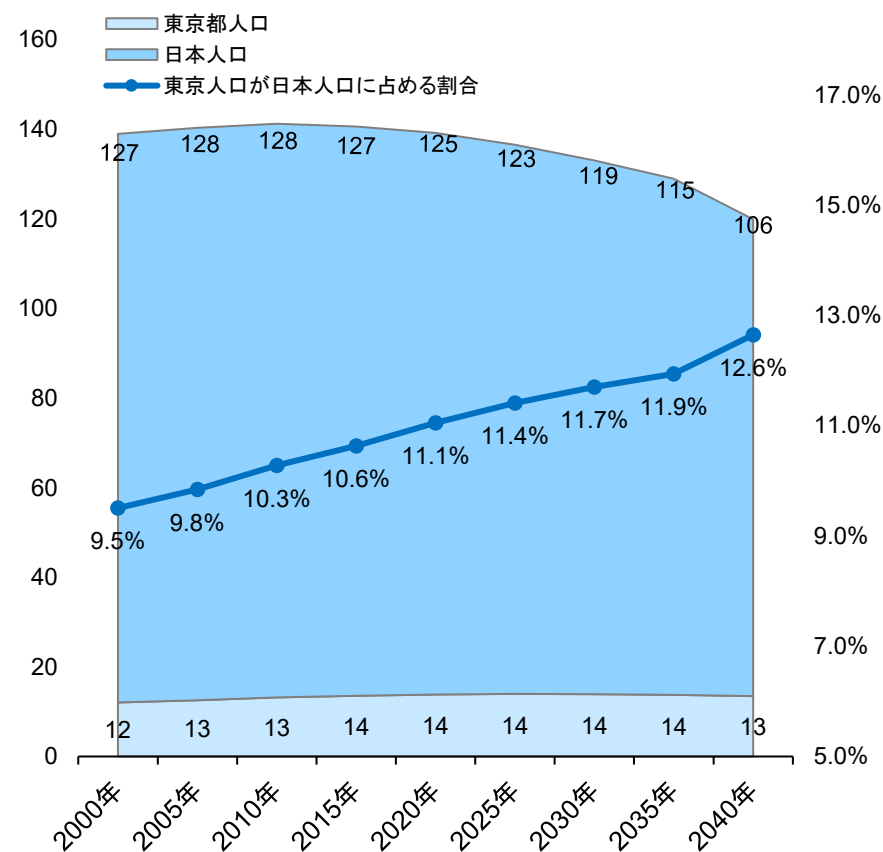
東京圏の転入者数と日本の人口動態

東京圏への転入超過が続いており、日本の人口が減少する中において、東京人口の割合は高まっている



出典：総務省統計「移動前の住所地別転入者及び移動後の住所地別転出者数」を基に当社作成

（千人） 日本人口に占める東京人口割合の推移（予測）



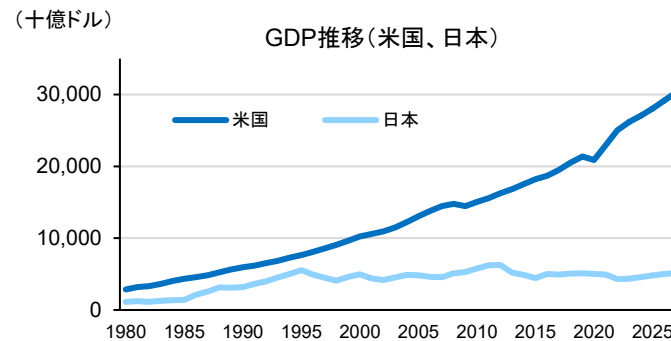
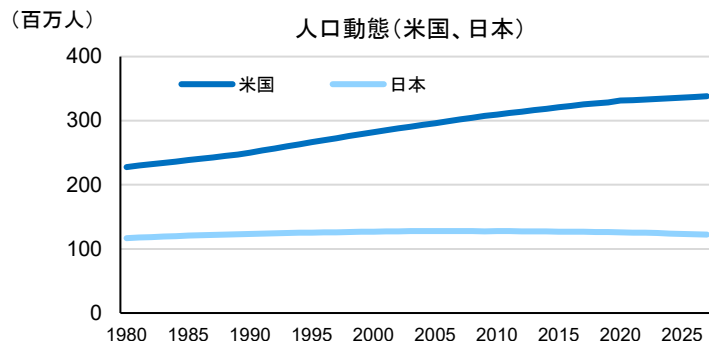
出典：東京都の統計「東京都の人口(推計)」を基に当社作成

海外市場(アメリカ、ベトナム)について

人口増加と高い成長率が続くアメリカ(ニューヨーク)とベトナム(ダナン)で、日本品質の居住用不動産を提供

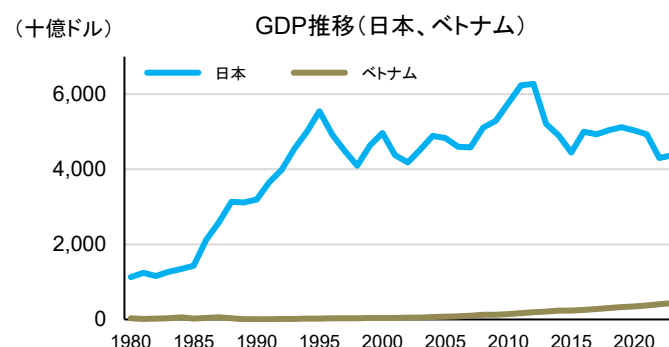
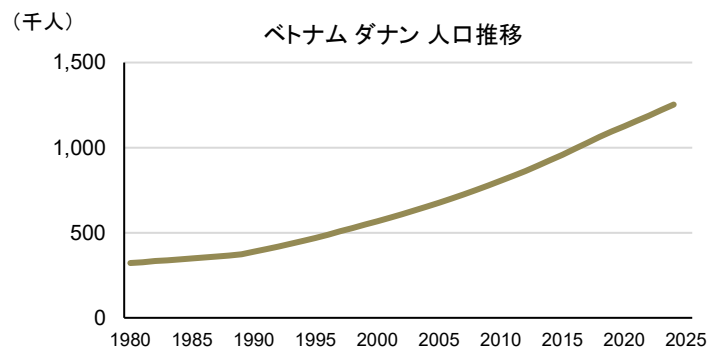
人口が減少している日本に対し、アメリカは人口が増加し続けており、住宅の需要が続く可能性が高いと考えられる

成長率が横ばいの日本に対し、アメリカは成長率が非常に高く、多くの雇用があり、不動産需要が今後も高いと考えられる



ダナンは、ベトナム第三の都市。2017年に人口100万人を突破し、その後も増え続けており、今後も高い住宅需要が見込まれる

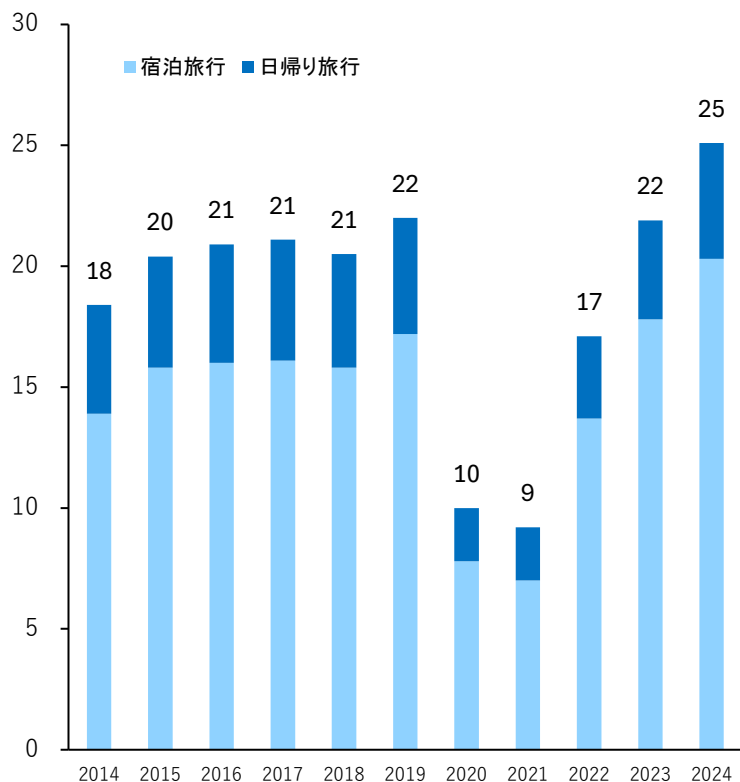
ベトナムのGDPは、日本に対して低位ながら、成長率は日本よりも高く、将来性が高いと考えられる



ホテル市場の需要回復と今後の成長性

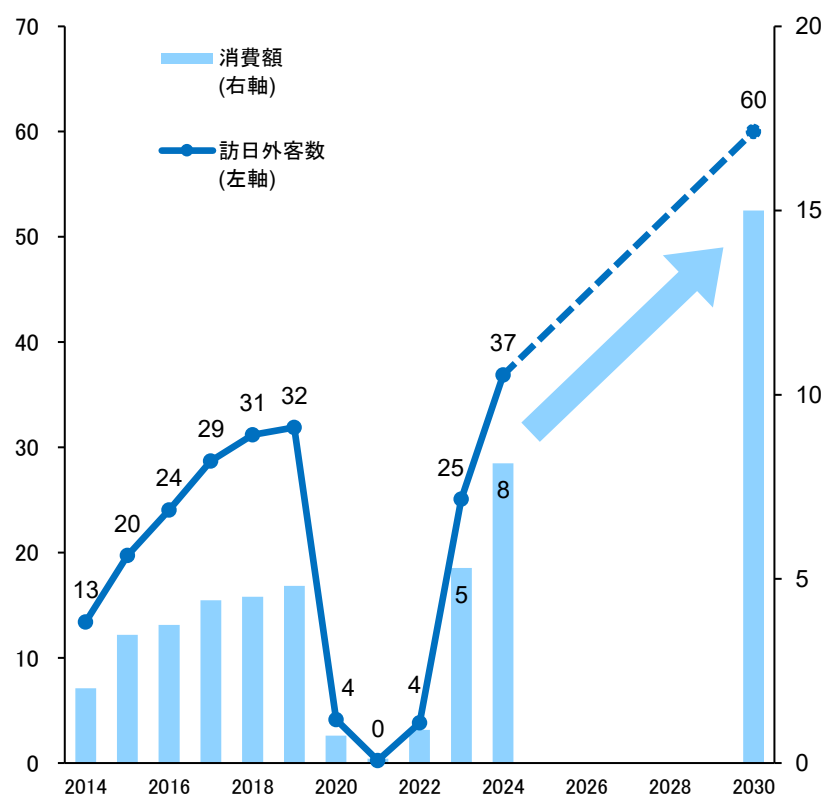
旅行需要の回復が著しく、訪日外客数・消費額ともに、今後更に拡大が期待される

(兆円) 日本人国内旅行消費額の推移



出典: 観光庁 旅行・観光消費動向調査「日本人国内旅行消費額」を基に当社作成

(百万人) 訪日外客数、訪日外客消費額 推移 (兆円)



出典: JNTO 訪日外客数統計、訪日外客数および消費額の政府目標を基に当社作成

Environment

2025年9月30日時点

RP実績 棟数



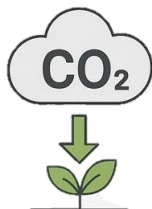
計 522棟

カーボンオフセット
累計 3,493t-CO₂e

うち、RP工事
74棟 1,411t-CO₂e



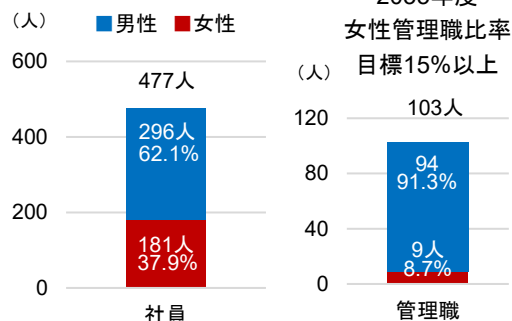
管理受託21物件
BELS認証取得



温室効果ガス排出量
抑制率: 12.7%

Social

社員・管理職 男女比率



※2025年9月末実績

育児休業

男性の取得率: 21.4% (前年比+11.4%pt)
当社育児休暇制度の利用を含む取得率: 71.4%
女性の育児休業からの復職率: 89.3%

※2025年3月末実績

人財育成

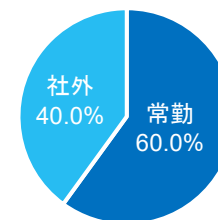
目標: 支援制度等が所定労働時間の12%以上
実績: 12.0%

※2025年3月末実績

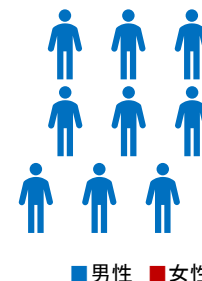
Governance

2025年9月30日時点

独立社外役員比率 1/3以上

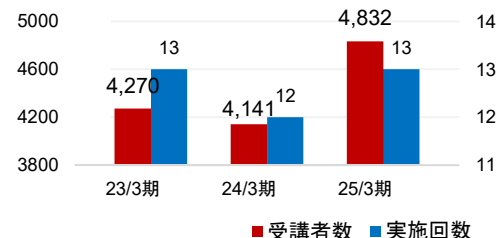


女性取締役 10名中、1名



コンプライアンス関連研修実施率

研修実施回数: 13回
延べ受講者数: 4,832人 (前年比691人)



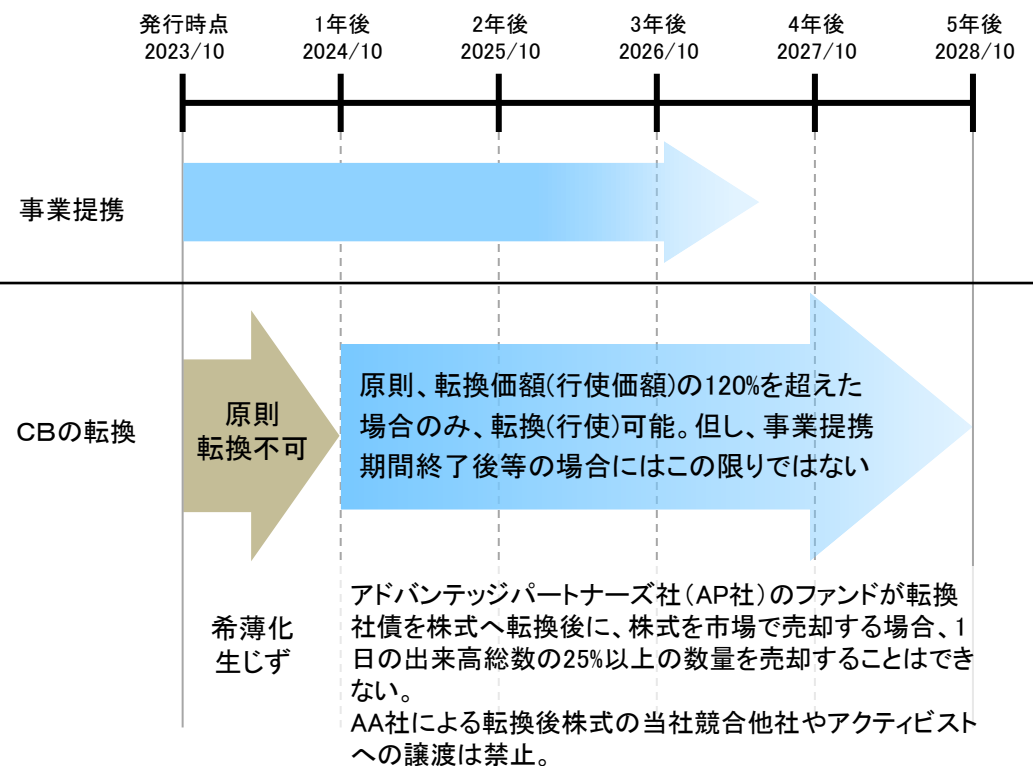
サステナビリティのHPはこちら



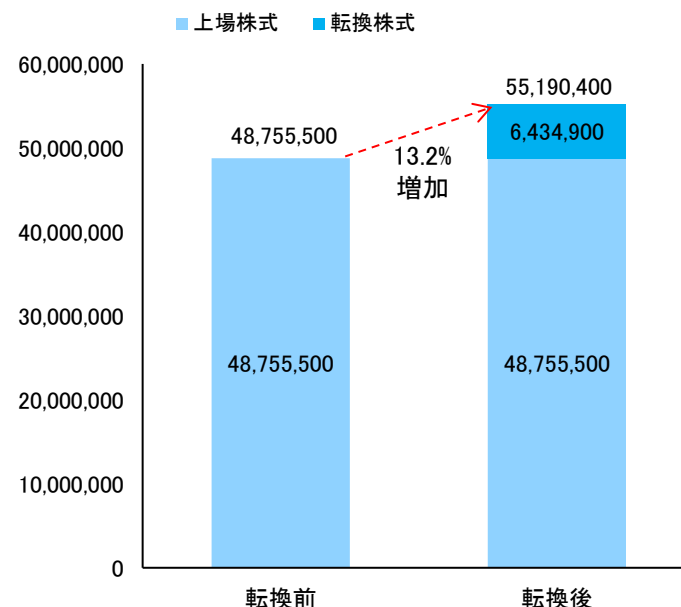
CBの転換条件

種類	転換社債型新株予約権付社債 (CB)	満期	5年
発行日	2023年10月6日	転換可能期間	払込期日から5年間 原則、払込期日から1年間は転換不可
調達資金額	約100億円	転換価額	1株当たり1,554円
社債利率	0%		原則、転換価額の120%を超えた場合 (1,865円以上) のみ、転換可能。但し、事業提携期間終了後は除く

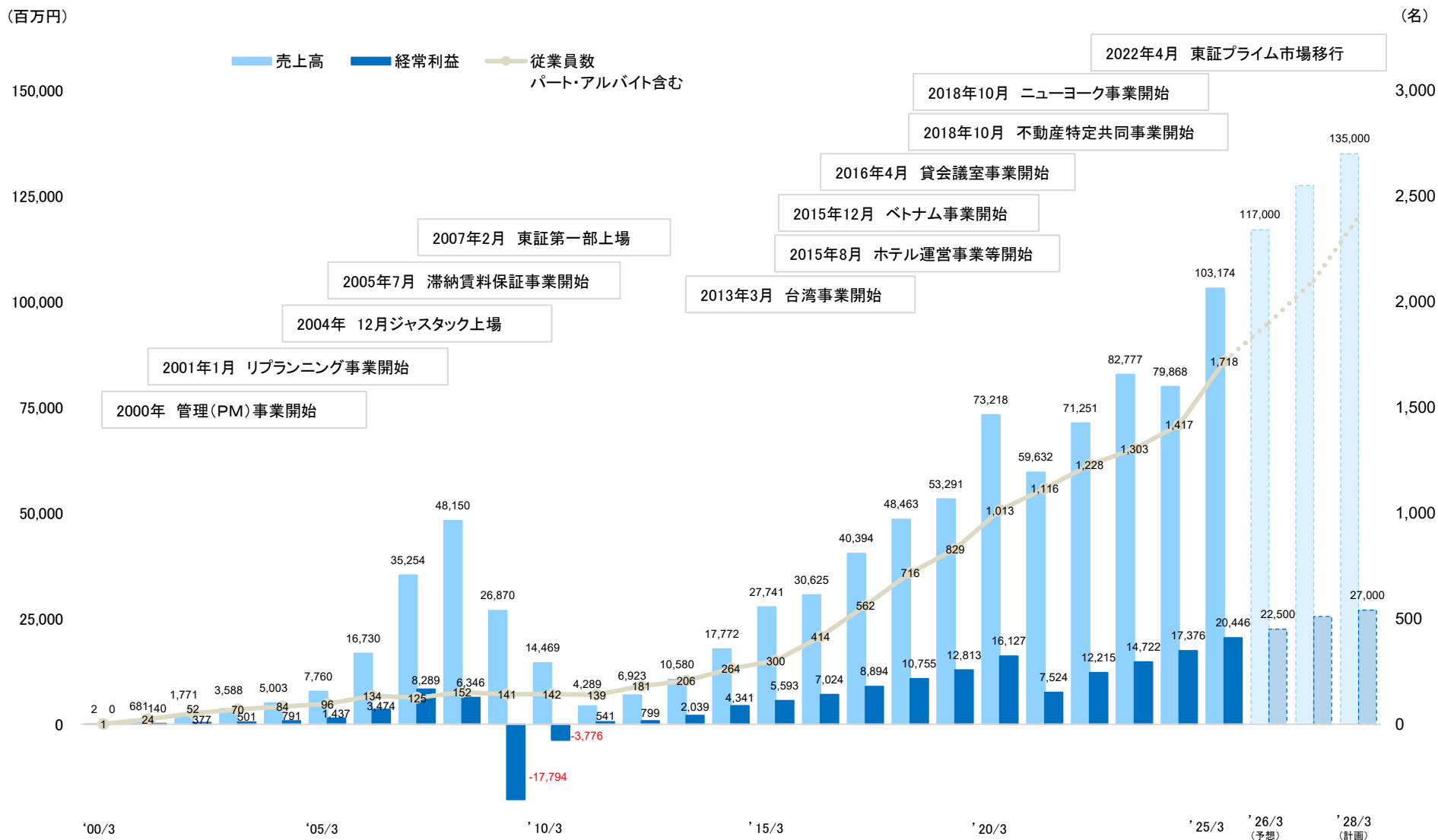
資金使途	金額
新規ホテル開発に伴う用地取得、 建設工事投資	約80億円
ホテル開発事業と建設事業を 主としたM&A資金	約20億円



転換による株式数の増加の可能性



サンフロンティア不動産グループの変遷



会社概要

会社名	サンフロンティア不動産株式会社
本店所在地	東京都千代田区有楽町一丁目2番2号
設立年月日	1999年4月8日
上場年月日	2007年2月26日 東証一部(現、東証プライム)
資本金※	11,965百万円
代表者	代表取締役会長 堀口 智顕 代表取締役社長 齋藤 清一
連結従業員数※	正社員 969名(パート・アルバイト含む 1,822名)
平均年齢※	35.7歳
事業内容	不動産再生 不動産サービス(不動産の管理・仲介・建築企画・滞納保証・貸会議室 賃貸ビルのオペレーション・資産コンサル) ホテル・観光 その他
決算月	3月
上場市場	東証プライム(証券コード 8934)

※ 2025年9月末日現在

今後ともご支援賜りますよう 宜しくお願いいたします。

- ◆ 本資料は情報提供を目的としたものであり、特定の商品の募集・勧誘・営業等を目的としたものではありません。投資を行う際は、投資家ご自身の判断と責任で投資なさるようお願いいたします。当社の株式のご購入にあたっては各証券会社にお問い合わせください。
- ◆ 本資料で提供されている情報は、金融商品取引法、宅地建物取引業法等の関係法令、及び東京証券取引所上場規則等に必ずしも則ったものではありません。
- ◆ 本資料の内容には、将来の業績に関する記述が含まれていますが、このような記述は、将来の業績を保証するものではありません。
- ◆ 本資料の内容に関しては、万全を期しておりますが、その内容の正確性及び確実性を保証するものではありません。
また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

<本資料に関するお問い合わせ>

サンフロンティア不動産株式会社 経営企画部

Phone : 03-5521-1551

URL : <https://www.sunfrt.co.jp/>

Mail : ir-contact@sunfrt.co.jp



SUN FRONTIER